

2020年度

高大連携プログラム

～高校と大学の接続を目指して～



Hokusei Gakuen University

北星学園大学

北星学園大学短期大学部



北星学園大学 北星学園大学短期大学部 高大連携プログラム

高校や大学は、少子高齢社会という大きな社会変動の中で揺れ動いています。国公立か私立かを問わず、競争と選別という時代の空気の中で、各学校はその特色をどのように打ち出すかを迫られ、多様な試みがなされています。特に注目され、普及してきているものに、「高大連携」の試みがあります。この考え方には、「高大連携」・「高大接続」・「高大一貫」といった考え方が含まれています。中高一貫の考え方を加えれば、6・3・3・4制をもっと流動的・連続的に捉えようとするものになります。

社会に開かれた大学を標榜する北星学園大学は、この高大連携の考え方を「高大連携プログラム」と名づけており、ここには次の二つの理念が含まれています。

一つ目は、「社会に開かれた大学」としての社会貢献の考え方です。「知と技の資源池」としての大学は、その持てる知と技を積極的に社会に提供していくことによって社会的責任を果たすことが期待されています。

二つ目は、次代の大学生たる高校生に、「学び・研究する」ことの喜びの予感を提供することによって、自己の力と志向に基づいた大学の選択が可能になり、大学の教育との相乗的な効果を期待できます。

以上の二つの理念を懐いた「高大連携プログラム」へお誘いいたします。

1

高大ブリッジ講義(出張講義)

大学進学についての選択は、多くの人にとって、社会へ出る前の「学びの成就」の機会を手にするものであり、かつ、社会における自らの活動を基礎づける「知と技」を選び取ることも意味していると考えられます。

そうした大きな人生の選択を、カタログの中の数字だけで決めてしまってよいものなのでしょうか。少なくとも4年という短くはない時間をかけて自らの学びを成就させることとなる「大学」とは、果たしてどういうところなのか。実際に施設・設備を自らの目で確かめ、そこで提供されるプログラムを体験し、既にそこで学びを進めている者の話を聞く、そうした機会も、北星学園大学は積極的に提供してまいりました。

高大ブリッジ講義(出張講義)は、北星学園大学の教員が高校の教室に赴いて、高校生の皆様に、大学での「学び」とはどのようなものなのか、大学にはいかなる「知と技」があるのかに触れていただく機会を提供しようとするものです。この高大ブリッジ講義(出張講義)は、高校生の皆様が大学での学びへの憧れを育み、恐れを払う一助となるでしょう。

お申込み方法 … 希望の講義をお選び頂き、巻末の申込用紙にご記入の上、FAXでお申し込みください。

申込締切: 講義希望日の1ヶ月前

申込用紙: 複数の講義をお申込みの場合は、お手数ですが、申込用紙をコピーしてご利用ください。

- 留意事項:
- ①ご希望の日時について、担当教員との調整が必要な場合がございます。ご了承ください。
 - ②担当教員の職務の都合上、ご希望に沿えない場合もございますので、複数の教員についてご希望をお示しいただければ幸いです。
 - ③派遣に係る費用は、全て北星学園大学が負担します。
 - ④毎週水曜日午後は、本学校務(会議等)を原則として優先させていただきますので、派遣できない場合もございます。
 - ⑤ゼミ形式の授業をご希望される場合、申し込みの際にその旨お知らせください。
- ※なお、ゼミ形式の場合、内容が変更となる場合がございますので、ご承知おきください。

ゼミ(Seminar)とは?

少人数・対話形式(講義を聴くだけの受身の授業ではなく、参加・実践型の授業)

大学の授業は主に講義形式とゼミ形式に分けられます。

講義形式は、一般的に高校の授業と同じように教員が主導して授業が進み、学生側から見れば話を聴く割合が高い形式です。しかし、ゼミ形式では、講義形式に比べると、学生の人数が少なく設定され、あるテーマについてより深い知識を得るための意見交換や討論が中心となります。そのため、2~5人のグループで調べ、話し合いをした結果に対して、他の学生が質問や意見を出し合って学習することも多くみられます。最後には、いろいろな側面から教員がアドバイスをを行いますので、一つのテーマについてより深く理解し、そして広がりのある知識を得ることができるようになります。

Index

心理コミュニケーション

講義番号	テーマ
1	人が人を好きになるメカニズム
2	スポーツメンタルトレーニング(実力発揮の方法)
3	心理学は世界を救えるか? ~心理主義化する社会を考える~
4	心理学から映画を見よう ~物語を支えるキャラクターたち~
5	高齢者ケアの心理学 ~高齢者心理における心理学の役割~
6	災害支援の心理学
7	手品と情報のフシギな関係 ~スプーン曲げからメディアを考える~
8	正しい報道って何だろう ~ジャーナリズム倫理を考える~
9	「病い」「疾患」「病気」の違いは? ~医療コミュニケーション入門~
10	「自分」と「他者」を知るコミュニケーション技法
11	「コミュカ」を科学する~ヒューマン・エラーの認知心理学からみたコミュニケーション能力とは?~
12	「コミュカ」を科学する ~音楽心理学からみたコミュニケーションとは~
13	他者を理解する ~コミュニケーションの基盤~
14	「心」とは何か? ~「心」の由来を考える~
15	自信を育てる心理学
16	自分も相手も尊重するコミュニケーションを考えよう
17	「聴く」コミュニケーション
18	心理検査とコミュニケーション
19	臨床心理士の仕事から臨床心理学を考える ~大学で学ぶ臨床心理学と職業とのつながり~
20	心へのアプローチ ~大学で学ぶ心理学~
21	公認心理師 ~心理職の国家資格について知ろう~
22	(感)情と理(性)
23	信じる心を科学する
24	心理療法体験 ~描画療法とリラクゼーション法でストレス解消!~
25	生活の中の心理学
26	見えてる?見えてない? 普段気づかない心の仕組みを解き明かす

担当者名
濱 保久
袁内 豊
田辺 毅彦
阪井 宏
大島寿美子
後藤 靖宏
石川 悟
柿原久仁佳
牧田 浩一
眞嶋 良全
佐藤 祐基
中村 浩
藤木 晶子

語学・文化

27	異文化コミュニケーション入門
28	動物の交信と言語
29	英語の発音法
30	英語ディスカッションへの参加方法
31	アメリカ演劇の楽しみ ~ブロードウェイミュージカルとアメリカ文化~
32	外国語(英語)習得を「科学」する ~習得の個人差はなぜ生まれるのか~
33	「公園で走る」と「公園を走る」はどう違う? ~外国人に対する日本語教育入門~
34	世界で使われている英語とは? ~「共通語としての英語」という見方~
35	「若い人ほど外国語習得ははやい」は本当? ~外国語学習の「神話」に迫る~
36	英語を話せる力とは
37	英語を英語らしく話そう!
38	色々な英語の教え方
39	いろいろな英語の教え方・学び方
40	グローバル化と市民社会の役割
41	「マザー・グースの唄」を楽しみましょう!
42	文学の授業で学べること
43	英文をスキルで捉える
44	心に染みる英文を読む
45	シャドウイングとは?
46	英語の発音とスペリングの関係、語彙の多様性
47	通訳者、通訳ガイドの仕事とは
48	中国語に親しもう!
49	中国古典文学<萌え>の世界
50	中国の妖怪・不思議な話
51	海外スタディツアーへの誘い ~プロジェクト型海外研修~
52	世界一周ことばの旅
53	文法の世界:日本語と外国語は何が違う?
54	確実に伝えるための説明の技術
55	日本語ウォッチングで街を行こう
56	考える/分かりあう ための論理トレーニング
57	退屈な芸術?:古い彫刻を見る
58	くらべて観れば:西洋建築と日本建築の鑑賞法
59	見せ方ひとつでこんなに違う!ビジュアルコミュニケーションの基本
60	モンゴル遊牧民の暮らしと食べ物

長谷川典子
J.W.ラケット
高橋 克依
高野 照司
柳町 智治
江口 均
中地 美枝
島田 桂子
斎藤 彩世
竹村 雅史
白鳥 金吾
田中 直子
山本 範子
西原 明希
松浦 年男
田村 早苗
遠藤 太郎
川部 大輔
風戸 真理

福祉・健康

61	外国からみた日本の若者
62	豊かな国でなぜ子供の貧困率が高いのか
63	環境問題と社会福祉
64	「ジェンダー」って
65	「幸福」とは
66	「高齢者福祉」の学習・体験によって広がる将来の進路選択!
67	日本の医療...どうなっているの?これからどうなるの?
68	福祉実践を支える思想 ~ノーマライゼーションから今日まで~
69	高校生にもできる地域福祉活動の担い手! ~何ができるだろうか!~
70	社会福祉からの地域社会へのアプローチ ~災害から命を救う地域社会を目指して~
71	社会と社会福祉
72	社会福祉から考える日本の未来 ~世界幸福度ランキングを素材として~
73	社会福祉から考える幸福(well-being)論 ~人間の幸せに必要な社会的条件~
74	グローバル時代における「多様性尊重/多文化共生」 ~社会福祉から考える~
75	社会保障入門 ~<支え合いの仕組み>としての年金・医療・介護~
76	高齢者を包含した社会づくり
77	高齢者のウソとホント
78	まちづくりの社会学
79	福祉は「恥ずかしい」?
80	現代日本を蝕む貧困
81	「社会保険」って知っていますか? ~社会保障制度入門~
82	障害者福祉の考え方
83	福祉臨床(ソーシャルワーク)とは、何をすることか?
84	精神に障害を抱えた人を、理解するには?
85	こころの病(精神疾患)を理解する
86	少子高齢化×人口減少=日本の将来 ~どんな地域になるの?どう生活するの?~
87	障害について知っていますか? ~50人に1人の確率~
88	障害(がい)のある人とともに作る社会とは?

K.U.ネンシュティール
安部 雅仁
岡田 直人
佐橋 克彦
伊藤新一郎
中田 知生
松岡 是伸
林 健太郎
田中耕一郎
中村 和彦
永井 順子
畑 亮輔
田実 潔

Index

講義番号	テーマ	担当者名
89	体力向上と日常生活習慣	星野 宏司
90	ケアすること されること	藤原 里佐
91	子どもは誰のもの？	
92	日本経済の160年	平井 廣一
93	日中経済の100年	勝村 務
94	サキヨミの経済学 ～ゲーム理論と美人投票～	野原 克仁
95	オリンピックを文化経済学で考える ～スポーツの文化経済学～	楠木 敦
96	人類はたった1秒で地球を破壊した ～地球崩壊のシナリオ～	柴崎 慎也
97	同じ大地につながる生き物たちの悲鳴	大原 昌明
98	地球が抱える問題に、環境経済学ができること	
99	経済学史入門	鈴木 克典
100	経済学のあたりまえを疑ってみよう！	韓 文熙
101	さまざまな曲線を知って「経済」にアプローチしよう！	林 秀彦
102	キミにもできる会計的発想 ～「金持ち父さん貧乏父さん」の教え～	黄 雅斐
103	会計はあなたを救う！ ～どんな組織でも必要とされる会計知識～	増田 辰良
104	「さおだけ屋」と「食い逃げ」から考える会計の話	秋森 弘
105	牛丼とハンバーガー、どちらがお好き ～経営と会計の味な話～	
106	あなたの知らない世界 ～職業と会計～	竹野内真樹
107	決算書を読んでみよう	林 健太郎
108	経済学と経営学、何が違うの？	山本 慎平
109	コンビニを通して、購買心理と店内の工夫を探る	
110	コンビニ大解剖！ ～商品と歴史について探る～	
111	人の移動とお店の立地の関係について探る	
112	私たちの身の回りに広がるユニバーサルデザイン	
113	案内サインと情報提供について考える	
114	ブランドの生き方：人々を幸せにする商品開発	
115	サービス科学と情報技術	
116	「日本マクドナルドvs.モスバーガー」に学ぶ経営戦略	
117	「LINE」に学ぶビジネスモデル	
118	家電リサイクル法と経済学	
119	数学を使って、経済問題を解く	
120	「金融政策のしくみ」入門	
121	「お金」になりうるモノとは	
122	日本企業の生産システム	
123	国際経済に関する常識と理論とのギャップ ～社会的通念は支持できるのか？～	
124	リーマン・ショックとは何であったのか？	
125	なぜ人々はブラック企業・ブラックバイトを辞めないのか？	
126	日本の経済学者たち	
127	契約・法・北方領土	篠田 優
128	犬の権利と猫の義務	
129	あなたは覗かれている ～プライバシーの危機～	岩本 一郎
130	デザイナー・ベビー ～魔法か、それとも悪魔の技術か？～	
131	家族における男女の平等	
132	18歳の選挙権	
133	A1と法・倫理～私たちはA1とどうつき合うか～	
134	売買契約の考え方 ～ローマ法編	
135	お金の貸し借りについて ～日常編	
136	お金の貸し借りについて ～会社取引編	
137	親子とは何か ～親子法のヒューマニズム	足立 清人
138	災害復興法学のすすめ	
139	卒業後の人生：生活を考えてみましょう	
140	契約法務入門	
141	ネゴシエーションを体験しよう	
142	お金がない！	長屋 幸世
143	ワインのブランドと価格のはなし	萩原 浩太
144	株式会社のしくみ	伊東 尚美
145	高校世界史から法学への架け橋	竹田 恒規
146	法は美しい街づくりの手助けになるのか？	
147	平和構築とは何か	野本 啓介
148	世界の子どもの現状 ～私たちに何ができるのだろうか～	
149	平和学入門 ～「戦争の世紀」から「平和の世紀」とするために～	片岡 徹
150	紛争解決学入門 ～身近な人間関係から国際紛争までを扱う学問の魅力とは～	
151	地球的に考えて地域で行動する(Think Globally, Act Locally)ために～高校生ができることは～	
152	国連の創設に関わったAndrew Cordierが歩んだ道とは	浦野真理子
153	身近なものから日本と東南アジアの関係を考える	
154	教育学入門 ～子どもから大人まで、人の育ちを考える学問の魅力とは～	片岡 徹
155	「大学の学び」の基礎となる「高校の学び」～知識を身につける大切さ～	
156	アメリカやイギリスの大学での学び方 ～「英語を学ぶこと」と「英語で学ぶこと」～	
157	アメリカの小学校では、子どもたちはどのように学んでいるのだろうか～English LanguageとMathを例として～	
158	先生になろう！ ～大学での学びに向けて～	鳴海 昌江
159	大学で学ぶ意味：社会科学をとおして社会の仕組み・つながりを理解する	野本 啓介
160	大学教育とは何か？	楠木 敦
161	教育におけるテクノロジーの役割：未来の学校はどうなる？	金子 大輔
162	先生のおしごと(教職入門)	田実 潔
163	eラーニングシステムを使った学習体験	中嶋 輝明
164	ソーシャルメディアによる新しい「つながり」	金子 大輔
165	コンピュータ動作の仕組み	佐藤 友暁
166	情報セキュリティ入門	
167	困難を乗り越えて生きること ～がん体験者が教えてくれるいのちと人生～	大島寿美子
168	地域社会から考える環境問題	寺林 暁良
169	自然とはなんだろう、自然を守るとはどういうことだろう	
170	「エントロピー」で測る多様性と格差	
171	「エントロピー」で見る生命環境問題	矢吹 哲夫

講義の展開について

- ①講義は45～50分程度を予定しておりますが、とくにご希望があればお知らせください。
- ②1回完結の講義だけではなく、複数回にわたって展開するもの、オムニバス形式のものなどについて、ご希望がございましたらご相談ください。
- ③受講人数には、原則として、制限はございません。少人数でも承ります。
- ④講義の内容や、実施形態などについてご希望があれば、ぜひお知らせください。
- ⑤掲載されていないテーマにつきましても、ご希望があればお知らせください。
- ⑥講義終了後、受講生の皆様の感想をお知らせ頂ければ幸いです。

心理
コミュニケーション

1

人が人を好きになるメカニズム

濱 保久 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

人が人を好きになるのは単純な仕組みではありませんが、この講義の中ではどんな時に人を好きになってしまうのかを説明します。普通の常識で考えられている方向とは逆の方向にも心の動きがあることを理解してください。

※9月以降開講せず

2

スポーツメンタルトレーニング (実力発揮の方法)

養内 豊 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

スポーツ場面に限らず、パフォーマンスを最大限に発揮するには自分自身の精神状態をコントロールすることが必要です。この講義では、パフォーマンスの発揮に関連する心理的要因と対処について、特にプレッシャーとリラクスの観点から説明します。また、プレッシャーやリラクスのコントロール方法について、スポーツメンタルトレーニングの技法を紹介しながら、実際に体験してみます。

3

心理学は世界を救えるか?

～心理主義化する社会を考える～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

ご存知のように、最近では、心理テストなどを使った自己診断や、さまざまな心のトラブルをめぐるTVドラマや映画などに関心が集まっています。そのせいか、カウンセラーなどを始めとする心理臨床職は非常に人気が高い職業となっていて、「トラウマ」や「アダルト・チルドレン」といった言葉は日常会話の中でも普通に使われるようになってきました。でも、このように、何でもかんでも心理学的に社会や人間を理解して、心理学的知識を使えば、世の中はよくなるのでしょうか？我々は幸せになれるのでしょうか？心理学のもたらしたさまざまな問題を考え、その知識をうまく使う方法について考え直してみたいと思います。

4

心理学から映画を見よう

～物語を支えるキャラクターたち～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

毎年、数多くの映画が公開されていますが、人間ドラマだけでなく、アクション、SF、アニメなどさまざまな作品の物語世界を、心理学から読み解いていくと、ふだんと違った楽しみ方ができ、これまで気づけなかった人間関係の視点が得られるかもしれません。具体的には「スターウォーズ」や「指輪物語」といった人気作品や少しマイナーな映画作品も紹介しながら、これらの作品を題材にして、物語と登場人物たちの相互の役割などを通して、映画の中で繰り広げられる心理学的宇宙について分析し、また、この知識が日常生活へも応用できないか、一緒に考えてみたいと思います。

5

高齢者ケアの心理学

～高齢者心理における心理学の役割～

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

日本が高齢社会に突入してから10年近くが経ち、高齢者を支援するさまざまな施設が数多く作られるようになってきましたが、年を取って、身体が不自由になったり、認知症が始まったりしても、若くて健康な世代にとっては、その身体的な不自由さや心理的な不安がなかなか理解できないものです。この講義においては、高齢者福祉の現状を紹介する中で、高齢者をケアするために心理学に何ができるのか、どうしたら、施設の利用者だけでなく、現場で働く介護スタッフがより快適に過ごすことができるのか、みなさんと共に考えていきたいと思います。

6

災害支援の心理学

田辺 毅彦 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

2011年に未曾有の被害を出した東日本大震災では、東北地域を始めとする広範な地域において地震や津波だけではなく、原発事故による放射能被害も含め、未だに十分な復旧ができていないのが現状です。しかしながら、人類は、これまで数多くの自然災害を経験してきました。その中で、被災した人々を襲うPTSDを始めとする心理的な問題とはどのようなものなのか、このような問題を克服するためにはどうしたらよいのかを考えてみたいと思います。

7

手品と情報のフシギな関係

～スプーン曲げからメディアを考える～

阪井 宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

あふれるほどのマスコミ情報に囲まれて暮らす私たち。いったいどの情報を、どう取捨選択してよいのか、迷ってしまうことはありませんか。実は私も、情報の大洪水の中で七転八倒している1人です。大学の研究室は新聞、雑誌、本、映像資料の山、また山。地震がきたらどうしよう、と途方にくれつつ、資料は年々増える一方です。すさまじい情報の海でおぼれないために、私たちはどうしたらいいのでしょうか。このところ人気のお部屋掃除の達人に、「情報掃除」を頼む？ いっそのこと、情報をすべて遮断して「孤高の世界」にひきこもる？ 簡単なマジック (特訓中です) を手がかりに、情報過多の時代の生き方を一緒に考えましょう。

8

正しい報道って何だろう

～ジャーナリズム倫理を考える～

阪井 宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

最近のテレビや新聞の報道、ちょっとおかしくない？ そんな不信感が募っている人、いませんか。東日本大震災の被災地で、取材ヘリはなぜ人命救助をしなかったんだろう。事件の被害者のもとへ行って、傷ついた人になぜマイクを向けられるのだろう。

このような「なぜ」に、マスコミはこれまできちんと答えてきませんでした。そんな理由を市民が知る必要はない、と出てきたのでしょうか。でもその姿勢が近年の報道不信を生んでしまっているのです。

報道の「なぜ」を知ることは、情報の賢い使い手になるための第一歩です。世の中で起こるさまざまな報道事例をもとに、ジャーナリズム倫理について一緒に考えてみましょう。

9

「病い」「疾患」「病気」の違いは？

～医療コミュニケーション入門

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

「病い」「疾患」「病気」はどこが違うのでしょうか？この講義では医療コミュニケーションの立場から、患者・医療者関係や、患者の世界・医療者の世界、医療と文化について考えます。

10

**「自分」と「他者」を知る
コミュニケーション技法**

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私たちは自分のことを知っているようで知りません。理解しているようで理解しておらず、大事にしているようで大事にしていません。では、自分のことを知り、理解し、大事にするとはどういうことでしょうか。実はそれは他者を知り、理解し、大事にすると同じことなのです。他者とのコミュニケーションの中で自分を知り他者を知る方法を、講義と実習を通して学んでみましょう。

12

“コミュカ”を科学する

～音楽心理学からみたコミュニケーションとは～

後藤 靖宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

朝起きてテレビをつけ、通学中にiPhoneを聞き、授業が終わったらカラオケに行って、休日には好きなアーティストのライブを楽しむ…。このように考えてみると、私たちの日常生活には音楽が溢れていることに気づきます。あまりにも当たり前のことなので普段あまり意識しませんが、意識しないからこそ、音楽との関わり方を知ることが重要なのです。

“コミュカ”について科学的に考えるとき、音楽とのこうした関わりも重要な要素になってきます。

音楽を心理学的に捉えることで、いかに私たちが音楽によるコミュニケーションに助けられているかが分かるでしょう。なぜ音楽に好き嫌いがあるのか、どうすればイベントや映像作品で音楽を効果的に使えるようになるのか、勉強に音楽を有効活用するには？等々、面白いテーマにつながる「音楽とコミュニケーション」について考えてみましょう。

13

他者を理解する

～コミュニケーションの基盤～

石川 悟 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

皆さんが何気なく使っている「人間」という言葉には、ヒトという動物が生きていく状況が良く表されています。「人」の「間」で生活する私達は、他者なしでは生きることができません。一方で助けとなるはずの他者が、私達に苦しみをもたらすこともあります。そんな他者とのやり取りには、他者を理解する能力が不可欠です。

相手とやり取りを重ねていく場面において、他者を理解するとはどのようなことなのか、心理学の中で明らかになっていることを紹介しながら、他者とのつきあい方／向き合い方を考えてみたいと思います。

14

「心」とは何か？

～「心」の由来を考える～

石川 悟 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

私達はいつも「心」を感じながら日常生活を送っています。では、この「心」と呼ばれるもの、呼んでいるものの正体は何でしょうか？「心」の存在を実感するのは特にどんなときでしょうか？見ることも触ることも難しい「心」ですが、でも確かに「在る」と感じられる瞬間があります。

この講義では、「心」の存在が実感できる状況を紐解きながら、私達が普段何気なく感じている「心」とは何か考えたいと思います。同時にヒト以外の生き物にも目を向けて、この「心」がどのように私達ヒトのもとにやってきたのかについても考えを広げていきます。

11

“コミュカ”を科学する

～ヒューマン・エラーの認知心理学からみたコミュニケーション能力とは？～

後藤 靖宏 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

「先生について“お父さん”と呼びかけてしまった」、「「ごめんね」と打とうとして「ごめんな」と偉そうなLINEになってしまった」、「スマホだと思ってテレビのリモコンを持ってきてしまった」etc…。

誰にでもあるこのような体験は、実は「ヒューマン・エラー」と呼ばれる心理学の重要な研究テーマです。この程度なら笑い話で済みますが、人間関係や生死に関わるような問題となると、ことは重大です。

この講義では、このこととみにその重要性が認識されてきた“コミュニケーション能力”について、ヒューマン・エラーの認知心理学の視点から考えてみます。ネットやスマホの発達で急速にその形が変わってきたと言われる「コミュニケーション」について知り、友達や親子、恋人、そして自分自身を理解する一助にしましょう。

15

自信を育てる心理学

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

皆さんは、自信をもてることがありますか？人はどのようにして自信をもてるようになるのでしょうか。自信がある子どもと自信がない子どもの違いはどのようなことでしょうか。子どもの力を伸ばすには、どのようにしていくことが大切なのでしょうか。

心理学の実験を紹介しながら、自信を育てていくためにはどのようにしていくことが望ましいのか、一緒に考えてみたいと思います。

※10月以降開講予定

※10月以降開講予定

※10月以降開講予定

16

自分も相手も尊重する コミュニケーションを考えよう

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

この講義では、「アサーティブ」なコミュニケーションについて学びます。相手を尊重しながら、自分の気持ちを伝え、お互いを尊重するコミュニケーション方法を身につけることで、見えてくるものが変わってくるかもしれません。アサーティブなコミュニケーションのトレーニングが必要とされるようになった歴史や、現在の活用状況も合わせて学びます。

17

「聴く」コミュニケーション

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

これまで、誰かに話をしている時に、「話しやすい」相手だと感じたことはありませんか？コミュニケーションは、情報を発信することに重点をおかれがちですが、「聴く」ことも大切なコミュニケーションです。どのような聴く姿勢であると、より良いコミュニケーションにつながるのでしょうか。

この講義では、演習を通して、「聴く」姿勢の大切さを学びます。

18

心理検査とコミュニケーション

柿原 久仁佳 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

心理検査（心理テスト）をしたことがありますか？この講義では、心理学や心理検査についての概略を説明した後、簡単な心理検査をもとに、自分はどのようなタイプなのかを考えます。

そして、他者との交流にはどのようなパターンがあるのかを学びながら、自分の他者との交流パターンには、どのような特徴があるのか、どのようにしていくとより良いコミュニケーションになるのかを考え、自分についての理解を深めていきます。

19

臨床心理士の仕事から臨床心理学を考える ～大学で学ぶ臨床心理学と職業とのつながり～

牧田 浩一 (社会福祉学部福祉心理学科教授)

近年、臨床心理士（心理専門職）の仕事は、さまざまな分野に広がりをみせる職業となっています。たとえば、教育分野ではスクールカウンセラーや教育相談員として、医療分野では精神科や小児科など病院で、福祉分野では児童相談所や児童養護施設などで心理専門職が心のケアを担っています。更に、地震などの自然災害などにおいて人々の心の健康に寄与すべく活動しています。

本講義では、臨床心理士の仕事を紹介するとともに、臨床心理学という学問の特徴について講義を行います。

20

心へのアプローチ

～大学で学ぶ心理学～

牧田 浩一 (社会福祉学部福祉心理学科教授)

心は目にも見えないし、形があるものでもありません。そのような心をどのようにしたら知ることができるのでしょうか。

「心理学」は、学問としての歴史は他の学問領域に比べて新しい学問です。今日の「心理学」は、19世紀後半から始まりました。同時に2つの流れが生まれました。心を「物理学」を模範にして捉えようとした流れと心を病んだ患者さんへの実際的な手助けから生まれた流れです。

本講義では、「心理学」がどのようにして、目にも見えない形もない「こころ」を捉えようとしたのかをテーマとしたいと考えています。

21

公認心理師

～心理職の国家資格について知ろう～

牧田 浩一 (社会福祉学部福祉心理学科教授)

公認心理師の国家資格の取得への道のりは、どのようなものでしょうか。これまで日本において心理専門職の国家資格は、ありませんでした。臨床心理士資格を取得するためには、2年間の大学院へ進学が必須でした。公認心理師では、大学の4年間を基本とし、大学院への進学が必要とされます。

本講義では、公認心理師資格の取得への道のり、公認心理師の職責、職務や進学・進路について考えます。

心理系の大学進学を目指す高校生に、とくに聞いて欲しい内容です。

22

(感)情と理(性)

眞嶋 良全 (社会福祉学部福祉心理学科教授)

一般に、感情のままに（あるいは直観的に）動くことは、理性を欠いた、しばしば良くない結果をまねく行動であるとされています。一方で、理性的な行動は、そのような感情を抑え、いろいろな可能性を考慮に入れた合理的で意識的な行動であり、より正しい結果に近づくことを意図したものであるとされています。

しかし、本当にそうなのでしょうか。最新の心理学の研究からは、どうやらそう単純な話ではないということが明らかになっています。

この授業では、感情と理性がどのように人の行動を決めているのか、理性的な行動は本当に合理的なのか、感情と理性はどのように協調または牽制しあうのかといった問題を考えていきたいと思います。

23

信じる心を科学する

眞嶋 良全 (社会福祉学部福祉心理学科教授)

私たちは、日々いろいろなものを信じたり、あるいは逆に疑いながら生活を送っています。何でもかんでも疑ってかかるのは良くありませんが、一方で、何の疑いもたずにすぐ信じる、ということは騙されやすいということであり、詐欺にひっかかるなどの経済・心理的損失に繋がる可能性を秘めています。

この講義では、人はなぜ、どのように信じるのかについての心の仕組みを、具体例を交えながら考えてみたいと思います。

24

心理療法体験

～描画療法とリラクゼーション法でストレス解消!～

佐藤 祐基 (社会福祉学部福祉心理学科准教授)

スクールカウンセリングや心理相談室の現場では、どのような心理療法が行われているのでしょうか。

この講義では、一般には、知られることのない心理療法の世界を体験してもらいます。子どもから大人まで楽しめる「スクイグル法」という描画療法と、身体を使った「筋弛緩法」というリラクゼーション法を実施します。心理療法の前後に、ストレスの得点を測定して、心理療法の効果について実験的に検証してみたいと思います。

25

生活の中の心理学

中村 浩 (短期大学部生活創造学科教授)

知らず知らずの内にしている私たちの行動には、さまざまな心理学的ルールが隠されています。例えば、動いているものを見た時、私たちは瞬時にそれが生きているものか、ただの物体なのかを見分けることができますが、それは何故でしょう。また、赤ちゃんにおっぱいを飲ませている母親はなぜ赤ちゃんを揺らすのでしょうか。陸上競技のトラック競技ではすべて反時計回りに走りますが、それは何故でしょう。このような日常生活に見られるさまざまなことについて、一緒に考えてみたいと思います。

26

見えてる?見えてない? 普段気づかない心の仕組みを解き明かす

藤木 晶子 (短期大学部生活創造学科専任講師)

私たちは、毎日「モノを見て」暮らしています。朝起きたら、鏡で自分の顔を見る人もいます。学校に来たら、教科書を見る人もいます。このように色々なモノを見ながら、とくに不自由なく暮らしている人がほとんどだと思います。しかし、それ故に外界の世界はすべて見えていると思いませんか?

実は、そうではないのです。私たち人間はすべてを見てはいません。それに関わらず不自由に感じることはないはず。では、何が見えていないのか?何を見ているのか?本講義では、人間に備わる高度認知機能の一端を、実習を交えながら解き明かします。

語学・文化

27

異文化コミュニケーション入門

長谷川 典子 (文学部英文学科教授)

英語ができれば国際人になれる...と誤解していませんか?この講義では異文化間で起こる誤解やすれ違いの例をもとにしながら、異文化の人々とのコミュニケーションの障壁となる要因について考えてみたいと思います。

受講生の皆さんには講義を通して、自分たちが「普通」や「常識」と考えている行動や考え方が実は日本というフィルターを通して作られたものであること、世界の人々もみな同じように自文化のフィルターを通して世界を見ていることを理解し、言葉や文化の違いを超えて様々な人々が共生している国際社会で橋渡しとして活躍できるような国際人になるために必要なことは何かについて自分なりの答えを出してもらえればと思います。

語学・文化

28

動物の交信と言語

J.W.ラケット (文学部英文学科教授)

Most animals can communicate with members of their own species. Is animal communication the same as human language? In this lecture, we will look at 9 characteristics of communication and then compare animal communication with human language.

ほとんどの動物は同じ種のメンバーとコミュニケーションすることができます。動物のコミュニケーションは、人間と同じでしょうか?

この講義では、コミュニケーションの9の特徴を見て、動物と人間のコミュニケーションを比較してみます。

* This lecture will be presented in English only.
この講義は全て英語で行われます。

29

英語の発音法

J.W.ラケット (文学部英文学科教授)

英語でコミュニケーションをするのにネイティブの発音は必要ではありません。しかし、英語の発音の基本的なスキルを身につけると、相手があなたの英語をより理解します。

この講義の目的は英語の発音の基礎を紹介することです。

Part I : 英語の母音

Part II : 英語の子音

30

英語ディスカッションへの参加方法

J.W.ラケット (文学部英文学科教授)

What is discussion? How is discussion different from conversation, argument and debate? This lesson will explain what discussion is, how to choose a good topic, and how to participate actively. Students will have a chance to choose some topics and practice in small groups. We will use "activity cards" that will tell you exactly what to do.

※10月以降開講予定

31

アメリカ演劇の楽しみ

～ブロードウェイミュージカルとアメリカ文化～

高橋 克依 (文学部英文学科教授)

ミュージカルはアメリカで発達した芸能と言われています。台詞の他に歌やダンスを取り入れた演劇で、20世紀に大いに発展を遂げ、アメリカ演劇を語る際になくてはならないものとなっています。

この講義では、日本でも多くのファンを持つブロードウェイミュージカルをとりあげて、アメリカ演劇の世界の一端にふれていただきます。大都市ニューヨークでミュージカルはどのように演じられているのか、どのように評価されているのか、など、高校生にもわかりやすく話をし、英文学科での講義の一部を体験してもらいたいと思っています。

語学・文化

32

外国語(英語)習得を“科学”する

～習得の個人差はなぜ生まれるのか～

高野 照司 (文学部英文学科教授)

日本での英語学習は、(最近始まった小学校での英語学習を除いて)通常、中学入学時(13才)から始まり、ほぼ同じカリキュラムに従って同じ時間数の授業をこなし、高校へと継続されます。しかし、スタート地点が同じで、学習内容や時間数にそれほど大差がないのに、どうしてこれほどまでに習熟度の個人差(英語の得意・不得意)が生まれるのでしょうか。

本講義では、英語学習の個人差が生まれる要因について、「外国語習得理論」に基づいて考えます。グループ討議および発表の時間を設け、参加型の講義にしたいと思います。

36

英語を話せる力とは

江口 均 (文学部英文学科准教授)

英語が話せるようになりたいと思っている日本人はたくさんいます。しかし、英語学習で成功した、と胸を張って言える人はそういません。また、たくさん単語は覚えたけど、話すとなるとダメだという人も多くいます。言葉を話す、人とコミュニケーションを取るというのは単語と文法を知っていても出来ないということです。それでは、日本人にとって英語を話せるようになるためには何を学び、何を出来るようになるべきか、コミュニケーション能力とはどういうことなのかを学んでもらうのが講義の目的です。

33

「公園で走る」と「公園を走る」はどう違う?

～外国人に対する日本語教育入門～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

皆さんの中には将来、海外で働きたいと思っている人もいます。外国人に対する日本語教育という仕事は、そうした夢をかなえる一つの方法です。また、日本語を教えることを通して、日本語を見つめ直すことができるのも、日本語教育の魅力です。

さて、もし皆さんが外国人から「『公園で走る』と『公園を走る』はどう違うのか」と聞かれたら、どう答えますか。むずかしいですよね?日本語を母語として習得すると、日頃、日本語の文法や用法を意識しませんが、日本語教師になったら、こういう質問にも答えられないといけません。この講義では、私たちが日頃、何気なく使っている日本語表現を例として取りあげ、日本語教育の奥深さ、魅力について紹介します。

37

英語を英語らしく話そう!

江口 均 (文学部英文学科准教授)

英語を英語らしく話すということは一つ一つの音の出し方を正確に学び実践するというのも大切ですが、文やフレーズを固まりとして捉えることも大切です。また、何となくこんな感じと言うような捉え方も大切です。また、外国語の発音を覚えるには今の自分の殻を打ち破ることも大切です。そのように英語を英語らしく話せるようになるコツを伝授します。

34

世界で使われている英語とは?

～「共通語としての英語」という見方～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

世界の人口約76億の中で英語を母語とする人はそれほど多くありません。だいたい4億人弱で、世界の人口の約5%にすぎません。現代の国際社会では政治、経済、文化等の分野で英語が共通語となっていますが、そこでは、ネイティブの人の英語ではなく、英語を第二、第三言語として使っている人たちの英語が多数派を占めています。インドの言語、中国語、アラビア語、スペイン語に影響を受けた英語など、ネイティブでない人々の英語が世界で広く使われているのです。このような見方に立つと、私たちが他国の人と交流していくために、どのように英語の学習と向き合っていくべきかということが自ずと見えてきます。この講義では、「共通語としての英語(English as a lingua franca)」という視点から、21世紀の英語学習について皆さんといっしょに考えていきます。

38

色々な英語の教え方

江口 均 (文学部英文学科准教授)

英語の教授法というのは20世紀科学の進歩とともに様々な方法が生まれました。現在の日本でもいろいろな教え方が実践されています。しかし、自分が教えられた方法以外あまり経験するものではありません。教え方の違いはなぜ生まれるのか、その違いで英語に対する認識や技能にどのような違いが出るのか、授業の中で体験しながら考察してもらいます。

35

「若い人ほど外国語習得ははやい」は本当?

～外国語学習の「神話」に迫る～

柳町 智治 (文学部英文学科教授)

外国語学習については、科学的根拠のない「神話」が人々の間に広まっています。たとえば、「若い人ほど外国語習得ははやい」ということがよく言われますが、これも「神話」の一つです。言語研究者の間では、むしろ「older is faster」、つまり、「年令が上の人の方が習得のスピードがはやい」というのが定説になっています。また、「赤ちゃんがそうであるように、何も意識せずにただCDを聞き流すだけで外国語が習得できる」という教材の広告も見かけますが、これも研究成果に照らすと正しいとは言えません。この講義では、言語習得についての研究成果を皆さんに紹介しながら、外国語学習をめぐる「神話」に迫っていきたいと思います。

39

いろいろな英語の教え方・学び方

江口 均 (文学部英文学科准教授)

日本人は「英語ができない」とよく言われますが、決して能力がないわけではありません。しかし、教え方、学び方が間違えている、自分にあってないとすると、できないのも仕方ありません。自分にあった学び方をするには、どういうものがあるのかわかる必要があります。

この講義では、英語教授法、学習法を提示し、様々な方法があるということを知り、これまでの学習法を見直してもらう、ということを目指していきます。

40

グローバル化と市民社会の役割

中地 美枝 (文学部英文学科准教授)

グローバル化と聞いて、皆さんは何を想像しますか？留学や旅行のために自由に海外に行けること、インターネットを使って海外の人とすぐに連絡が取れること、世界中で日本車が走っていること、などが思い浮かぶかもしれませんが。これらはグローバル化の利点と考えられます。しかしグローバル化は貧富の差の拡大、文化の衝突、地方の文化・言語・風習の消滅などの様々な問題も引き起こしています。

市民社会の活動の多くは、グローバル化がもたらす負の影響の改善を目指すものです。本講義では、グローバル化の性質を理解することと併せて、市民社会の活動がどのようにその問題の改善を図ろうとしているのかを、具体的な事例に基づき考えます。

44

心に染みる英文を読む

竹村 雅史 (短期大学部英文学科教授)

心に残る英文を読んだことがありますか？英語を勉強していて良かったと感じる瞬間を皆さんと一緒に味わってみたいと思います。英文講読とは大げさですが、英文をかじった人であれば、どなたでも感動できます。みなさんと一緒に英語を通して心に残る英文を味わってみましょう。

41

『マザー・グースの唄』を楽しみましょう！

島田 桂子 (文学部英文学科准教授)

『マザー・グースの唄』は、数百年もの長い歴史の中で、親から子へ、子から孫へと歌い継がれてきたイギリスの伝承童謡です。『マザー・グースの唄』は、実はシェイクスピアの作品からビートルズの歌詞に至るまで、幅広く英語文化に影響を与えてきた（文化のゆりかご）なのです。

そんな『マザー・グースの唄』のいくつかを一緒に味わってみませんか？数え唄や早口ことば、なぞなぞなど、楽しくてちょっぴり不気味な内容の唄を音読しながら、ユーモア溢れるイギリス文化を味わいましょう。

45

シャドウイングとは？

竹村 雅史 (短期大学部英文学科教授)

シャドウイングとは、聴こえてくるスピーチに対してほぼ同時にあるいは一定の間をおいてそのスピーチと同じ発話を口頭で再生する行為です。これは、自分の声を出してリピートし、同時にリピートしながら自分の声も聴くので、すなわち、だまって聴いている時と比べ、3つの作業を同時進行させているわけで、3倍の集中力が働いていることになるわけです。今回は、このシャドウイングを活かして、リスニング力とスピーキング力の両方を身に付けることができる3つのシャドウイングの技法を体験します。その3つとは、complete shadowing、selective shadowing、interactive shadowing です。では、みなさん、一緒にやってみましょう！

42

文学の授業で学べること

斎藤 彩世 (文学部英文学科准教授)

「文学」と聞くと難しそうだなという印象を持つ人もいません。あるいは、価値のないものと考えてる人もいません。でも、私たちは日頃からたくさんの「物語」とかかわり、「読む／書く」行為の中で生きています。SNSも、日記も、歌詞も、映画やドラマも、誰かが「書き／読む」「物語」です。文学作品を読み、考えることは、こうした日々の営みの延長線上にあります。私たちが何者かを知り、よりよい人間関係をつくり、ゆたかな人生を送る上で、文学は実のところとても大事なものです。本講義では文学の授業で何を学び、何を考え、何を学ぶことができるのかを紹介したいと思います。

46

英語の発音とスペリングの関係、語彙の多様性

白鳥 金吾 (短期大学部英文学科准教授)

「なぜ英語は発音どおり書かないのでしょうか？」「なぜイギリスとアメリカでは同じ意味を表すのに違うスペリングを用いる場合があるのでしょうか？」「なぜ英語には ask-question-interrogate のように、似た意味なのに違う表現で表す語が多いのでしょうか？」など、英語を学習していると発音とスペリングの関係や、単語の多様性に悩まされることが多くあると思います。

この講義では、「英語の発音とスペリングのずれがどのように起こってきたか」「英語の単語が他の言語の影響を受けながらどのように増えてきたか」などについて、歴史をさかのぼりながら皆さんと一緒に考えていきます。

43

英文をスキルで捉える

竹村 雅史 (短期大学部英文学科教授)

英文を深く味わう場合と英文を情報として捉える場合では、自ずとその英文に対するアプローチは異なってきます。英語学習を技能教科として見なせば、そのスキルを高める練習を積むことで、英語をより自分のものにすることができます。

この講義は、初めて目にする英文を Scanning, Skimming, Thinking Skills 等のスキルを実際に使って、英文に対する心構えを養うことを目指します。(主に演習の形式をとります)

47

通訳者、通訳ガイドの仕事とは

田中 直子 (短期大学部英文学科准教授)

近年の日本の国際化と、日本における観光産業の発展に伴い、通訳者と通訳ガイド（案内士）の需要が高まり、同時にこれらの仕事に対して興味、関心を持つ若者が増えています。本講義では、現役の通訳者、通訳ガイドである講師が、これらの仕事の概要についてお話し、通訳者と通訳ガイドそれぞれに求められる技能、知識、資質、心構え、仕事の醍醐味などについて取り上げます。

また、希望があれば大学の通訳の授業で行われている通訳訓練法を取り入れた英語学習を実際に体験してもらいます。

語学・文化

48

中国語に親しもう!

山本 範子 (文学部准教授)

日本の漢字とは異なる中国語。「新聞」は中国語では「ニュース」の意味です。発音や日中比較などを通して、中国語に触れてみましょう。簡単なあいさつや歌も練習します。

※10月以降開講予定

52

世界一周ことばの旅

松浦 年男 (文学部教授)

外国語学習には時間をかける必要がありますが、ちょっと覗くだけなら簡単にできます。この講義では世界で話されている様々な言語の中から3つほど取り上げ、音声、文字、文法の解説を行い、簡単な練習問題に挑戦します。もちろんこの授業だけでその外国語を理解することはできませんが、これらの作業の中で日本語との類似点や相違点に注意を向けることによって、言語の多様性や共通性といったものに対する理解を深めると同時に、外国語というものに対するなじみを持てるようになることでしょ。

49

中国古典文学<萌え>の世界

山本 範子 (文学部准教授)

日本だけでなく、中国も<萌え>があります。古典文学における<萌え>のツボって?様々な小説を紹介しながら、現代にも通じる中国古典文学の面白さを考えていきます。

※10月以降開講予定

53

文法の世界: 日本語と外国語は何が違う?

松浦 年男 (文学部教授)

文法という難しい用語ばかりで思わず目を背けそうになります。しかし、文法とはどの言語も持っているしくみ(規則・制約)のことで、大きく違うと思うような言語の間でも文法という視点から見ると似たような性質が見られます。

この講義では、多くの人に身近な日本語を中心に「文法」を感じるための様々な作業を行い、外国語の学習やより高度な日本語の運用の基礎となる「ことばに対する感覚」に気づくことを目指します。

50

中国の妖怪・不思議な話

山本 範子 (文学部准教授)

古来中国では、怖い話や不思議な話がたくさんありました。妖怪・化け物・幽霊…。そういったモノを通して、中国の文化を学び、現在に通じる様々なコトについて考えてみましょう。

※10月以降開講予定

54

確実に伝えるための説明の技術

松浦 年男 (文学部教授)

「ずいぶん遅かったね。どうしたの?」「なんか昨日テレビ観てたらしい間にかグーってなっちゃって、バサってなってドサドサってして出ただけけど道がドチャーってなってたからさあ…」さて、この答えは「伝わっている」のでしょうか?何も意識しなくても話せば伝わったような気持ちになりますが、意図がうまく伝わらないという経験は誰もが持っているものだと思います。この講義では、様々な事例や作業を通して「通じないこと」について考えていくことを通じて、説明について考えるきっかけとなることを目指します。

51

海外スタディツアーへの誘い ~プロジェクト型海外研修~

西原 明希 (社会福祉学部准教授)

あなたは「海外研修」と聞くとどのような研修を想像しますか?この講義では、オーストラリアでの22日間のプロジェクトへ皆さんを案内します。大学生になりきり、現地と英語で交渉をし、自分の会いたい分野のビジネスパーソンや大学の先生たちとの交流イベントを企画するところまで、シミュレーションしてみましょう。また、そのような経験を通してどのような能力を得ることができるかについても、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

55

日本語ウォッチングで街を行こう

田村 早苗 (文学部准教授)

街を歩くといろいろな日本語が目飛び込んできます。看板やお店のメニュー、注意書き、ポスター……わざわざ本や新聞を開かなくても、私たちの日常には日本語があふれています。中には「あれ、おかしいな?」と違和感を覚えるものも。

この講義では、街角のいろいろな「ちょっと変?」な日本語を入り口にして、日本語について考えてみます。その入り口は、日本語が持っているちょっと不思議な特徴につながっていたり、教科書には書いていない(でもみんな使いこなせる)「文法」につながっていたり、「うまく伝えるとは」という少し大きな問題につながっていたりします。一緒に街角から日本語の世界をのぞいてみましょう。

56

考える／分かりあう ための 論理トレーニング

田村 早苗 (文学部准教授)

考えがまとまらない、伝わらない、分からない——すこし複雑な問題や内容を扱おうとすると、こんな悩みをもつことはよくあります。そんな時のガイドとして、「論理」を知っておくことが役に立ちます。論理は小難しいものではなく、何かを考えたり、考えを共有したりするときによく使う方法や、よくある間違いについてのノウハウがまとめあげられたものと見れば、誰にとっても有用なものと言えるでしょう。

本講義では、論理トレーニング入門編として、いくつかの論理クイズを考えてみたいと思います。言葉だけではなく図や絵も使って、いろいろなやり方で考えを整理し共有する方法を練習しましょう。

60

モンゴル遊牧民の暮らしと食べ物

風戸 真理 (短期大学部生活創造学科准教授)

モンゴル高原には、家畜を育ててその畜産物を利用して暮らす遊牧民が暮らしています。私はモンゴルの遊牧民の家にホームステイして、約500日間遊牧民と一緒に暮らしながら彼らの生活技術を調査研究してきました。遊牧民の子どもは、家畜を飼う仕事をしている両親のもとで育ちつつ、町の学校に通っていました。この講義では、モンゴル遊牧民の例をとおり、日本と異なる生活・食事・子どもの育ち方を学びます。そして、異文化の人びとが私たちと同時代を生きる隣人であることを理解することをめざします。

57

退屈な芸術?:古い彫刻を見る

遠藤 太郎 (短期大学部生活創造学科教授)

古く、大きな美術館にはたいてい幾つか並んでいる大昔の彫刻達。色鮮やかで美しい絵画と比べ、今ひとつ取っつきにくい全裸や半裸の石像達は、一体、見る人達に何を訴えかけているのでしょうか？

どれもこれも似たように見える彫刻達ですが、そのポーズ、表情、身なりを分析していくと、幾つかのパターンを見つけることができます。そして、それらのパターンを通して、時代毎の美意識や社会背景の違いを明らかにすることができます。

退屈だった彫刻コーナーを、新しい眼で見直してみませんか？

福祉・健康

61

外国から見た日本の若者

K.U. ネンシュティール (社会福祉学部福祉計画学科教授)

表面的に見ると、日本の若い人は豊かで恵まれた環境で育ち、楽しい生活を送っているという印象になります。しかし他方、日本で不登校、いじめ、スクール・カースト、トイレ弁当、自殺、受験地獄、ブラックバイト、子供の貧困率などの問題も目立っています。10歳代の青少年の生活は、実際には、日本と欧米の国々との程度、どんな点で異なるのか紹介して、その背景を論じながら日本の若者が日常生活の中で恵まれている点とそれほど評価できない点と一緒に検討していきます。

58

くらべて観れば:西洋建築と 日本建築の鑑賞法

遠藤 太郎 (短期大学部生活創造学科教授)

皆さんは旅へ出た時、何を観るでしょうか。自然の風景やその町のお祭り、博物館や美術館を観ることも多いでしょう。それと同時に、その町の歴史的な建物を見ることも多いと思います。建物や町並みは、移動可能な絵画や彫刻、イベント等とは異なり、その場に行かないと経験できないものだからです。

本講義では、そのような歴史的な建物の鑑賞の仕方を、西洋と日本のスタイルの違いに着目しながら学びます。さらに、建物の形の違いに現れた、西洋と日本の生活の違い、美意識の違いも学びます。

62

豊かな国で なぜ子供の貧困率が高いのか

K.U. ネンシュティール (社会福祉学部福祉計画学科教授)

多くのOECD加盟国において子供の貧困率が上がる傾向があり、日本もその例外ではありません。その背景も、多かれ少なかれどこでもほぼ同じで、主に非正規雇用の拡大と離婚の増加を背景に貧富の格差が広がる傾向が強まっています。国によってかなり異なるのは、それに対応する社会政策です。

本講義では、非正規雇用の拡大などの背景、子供の貧困と高齢者の貧困との関係、貧困連鎖のメカニズム等についてわかりやすく分析・説明します。

59

見せ方ひとつでこんなに違う! ビジュアルコミュニケーションの基本

川部 大輔 (短期大学部生活創造学科准教授)

グラフィックデザインの目的は見た目をただ格好良くすることではなく、情報を速く・強く伝えるために視覚的な要素を駆使することにあります。

ビジュアルコミュニケーション (視覚伝達) の基本がわかれば、自分が伝えたいメッセージがメディア (媒体) を通して相手によりの確に届くようになります。

具体例を見ていながら、「伝わるデザイン」とはどのようなものか考えてみましょう。

63

環境問題と社会福祉

K.U. ネンシュティール (社会福祉学部福祉計画学科教授)

地球温暖化に代表される環境問題は近年、議論されることが多くなりました。ゴミや排気ガスについては、私たちの日常生活との関連性が見やすいですが、環境問題として意識されているものと社会福祉との関連性はそうでもないと思われます。しかし、国内外一般的に傷つきやすい (vulnerable) とされる人々、つまり経済的な理由のため、健康状態・年齢のため、教育機会の不足のためなどで「社会的弱者」とされる人々は環境悪化の影響を受けやすいのです。他方、彼ら以外でも環境変化が原因で起きた様々な困難の被害者全てが社会福祉の対象となりますので、具体例を用いてその多様性を明らかにしたいと思います。

福祉・健康

64

「ジェンダー」って

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部福祉計画学科教授)

「ジェンダー」という表現を聞いたことのない人は少ないでしょうが、「ジェンダーについて簡単に説明できますか」と聞かれて、答えにくいと感じる人が圧倒的に多いようです。「ジェンダー」は女性の不利に関する話であると思いがちで、確かにその部分が多く含まれていますが、男性が不利になっている部分も少なからず存在します。しかし、「ジェンダー」とは、どちらかの性別が不利になっていることに関するよりも、性別とそれに属すると思われる態度・生活などを押し付けることの根底にある問題を検討します。

68

福祉実践を支える思想

～ノーマライゼーションから今日まで～

岡田 直人 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

北欧でノーマライゼーションの思想が誕生した歴史的背景を主に紹介します。今日では、その思想は日本を含め全世界に拡がり、発展し、ソーシャルインクルージョン(社会的包括)に至っています。その経緯とこれからの地域や生活における社会のあり方にも触れます。そのなかで、日本における糸賀一雄の福祉の思想についても紹介します。

65

「幸福」とは

K. U. ネンシュティール (社会福祉学部福祉計画学科教授)

「幸福になりたい」とか「自分(だけ)は幸福ではない」と思うことがありますか。私たちの生活において「幸福」は大きな意味を持つ注目を引く表現となりましたが、実際に「幸福」とは具体的に何でしょうか。人によって異なると言えばその通りですが、それにもかかわらず共通の要因(例えば最低限のニーズが満たされていること)もありますし、「幸福度」を計るための定義も存在します。これらの定義を検討しながら、「幸福」になる可能性・実現とその重要性を皆さんと一緒に考えたいと思います。

69

高校生にもできる地域福祉活動の担い手!

～何ができるだろうか!?～

岡田 直人 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

日本の社会保障制度の脆弱化、地域社会の人間関係の希薄化が社会的に関心をもつようになり、社会福祉は変化してきています。そのなかで地域福祉が社会福祉の主流となり、地域住民と行政などと協力しての地域福祉活動がいつそう求められています。そこでこの講義では、高校生にもできる地域福祉活動の担い手として、何ができるのかを受講生に考えてもらう内容となっています。

66

「高齢者福祉」の学習・体験によって広がる将来の進路選択!

安部 雅仁 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

わが国では、高齢化が進む中で社会・経済のあり方が大きく変わりつつあり、こうした変化に対応する人材(=人財)の育成と確保が求められています。具体的には、高齢者の福祉と医療の分野だけではなく、民間企業や公共機関も「高齢社会にいかに対応するか!」が重要になっています。その中でも民間企業(製薬・薬局、住宅・リフォーム、旅行代理店、家具・福祉用具、保険・金融、百貨店・スーパー、教育やファッション等に係る企業)は、絶対数で増加する高齢者のニーズを把握し、そのニーズにいかに対応するかが経営を左右する重要課題として捉えています。もちろん国家・地方公務員も、高齢社会に対応するセンスや能力が求められるようになっていきます。現在わが国では、高齢者福祉の制度と実践に加え、広く社会・経済・法律を学び、さらにボランティア活動等を通して「高齢者とのコミュニケーション能力」を向上させることが大きな意義と可能性をもつこととなります。

70

社会福祉からの地域社会へのアプローチ

～災害から命を救う地域社会を目指して～

岡田 直人 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

私たちが住む身近な地域社会において、社会福祉はどのような役割を担うことができるのかを学びます。社会福祉は、高齢者・子ども・障がい者等、対象者別にこれまでは支援してきました。しかし、これらの者はみな地域社会に住んでいます。また、同じ屋根の下で福祉の支援が必要な高齢者・子ども・障がい者が暮らしていることも少なくありません。そこで、これらの者をすべて対象とする社会福祉の発想として地域福祉についてその考え方や方法について学びます。その際、災害から命を救うことができる地域社会に向けての取り組みやノウハウを紹介します。

67

日本の医療…どうなっているの? これからどうなるの?

安部 雅仁 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

わが国では、1961(昭和36)年に「国民皆保険」が制定されました。これが広く定着する中で「受診機会の平等」が基本的には保証され、長寿社会や長い健康寿命および低い乳児死亡率といった点で一定の成果も得られています(他の国に比べて、たいへん高く評価されています)。一方、医療費が増加する中で医療保険財政の赤字が拡大し、これが制度の持続(可能性)を低下させる要因にもなっています。主な検討課題として、長期(平均)在院日数、高額な薬剤費と医療機器、医師・医療機関の地域間格差、高齢者医療費の財源調達等があげられています。少子高齢化と経済の低成長が長期的トレンドと予測される現代において、医療制度改革は重要課題の一つと位置づけられています。この講義では、新しい動向を取り入れながら、日本の医療の実態と改革の方向について考えていきます。

71

社会と社会福祉

佐橋 克彦 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

「福祉」は単なる思いやりや、やさしさだけで語れるものでしょうか。確かにそれらは福祉を構成する一部ですが、現代社会における「社会福祉」は政治や経済との関係を抜きにして理解することは難しいです。本講義では社会福祉の前段階である慈善や、救済の限界などに触れつつ、わが国における社会福祉の成立を整理します。社会とは一体何者なのか、そして「社会」福祉の意味や現代におけるその存在意義を社会福祉制度の概要や社会福祉援助の特質を踏まえて考えてみます。

72

社会福祉から考える日本の未来

～世界幸福度ランキングを素材として～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

毎年、国連と米国の大学が共同で世界幸福度ランキングを発表しています。日本の順位は先進7カ国(G7)で最低です。日本は、経済規模を示すGDP(国内総生産)では世界第3位ですが、それは必ずしも高い幸福度の実現には結びついていません。

一方で、西欧や北欧の国々の多くは、日本よりも高い順位であることが多くなっています。本講義では、西欧・北欧と日本で「幸福度」が異なる理由を「社会福祉」を手がかりとしながら読み解くことで、これからの日本の課題/進むべき方向性について考えます。

76

高齢者を包含した社会づくり

中田 知生 (社会福祉学部福祉計画学科准教授)

高齢者は、社会にとってどのような存在なのでしょう。人によって見方は異なりますが、ほとんどの高齢者は定年によって職を失い、年金などの社会保障で生きることが余儀なくされている存在であることは間違いありません。また、近年においては、差別や偏見の対象にもなっていると思われています。

これらから、高齢者に関わる問題にはどのようなことがあり、そのようなことが起きるのはなぜか、そして、そのような高齢者を包含した新しい社会を作っていくための方策はあるのかを、考えます。

73

社会福祉から考える幸福(well-being)論

～人間の幸せに必要な社会的条件～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

一般に、誰もが「幸せになりたい」と願っている一方で、「幸せのかたち」は100人いれば100通りです。これは「幸せになるための条件」には個人差があるという事実を示しています。しかし、全ての人に共通する/全ての人にとって欠くことのできない「幸せになるための条件」があるとすれば、それは何でしょうか？

本講義では、このような問いについて、「社会福祉」の視点から考えることを通して、「すべての人々にとって共通する幸せの社会的条件」について考えます。

77

高齢者のウソとホント

中田 知生 (社会福祉学部福祉計画学科准教授)

人間であれば誰でも年をとり、「高齢者」と言われる人になりますが、実際にわれわれは高齢者という存在をどれだけ知っているのでしょうか。

アメリカの老年学者であるパルモアは「高齢者クイズ」というものを作成し、実際に人々がどれだけ高齢者のことを理解しているかを検証しました。

この講義では、日本における「高齢者クイズ」を通して、われわれが持つ高齢者への偏った見方とその理由を明らかにすることにより、年齢とは何か、高齢者とはどのような存在か、そして、高齢者を包含した今後の社会のあり方を検討します。

74

グローバル時代における「多様性尊重/多文化共生」

～社会福祉から考える～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

グローバル化が進んだ現代社会では、海外から多くの人々が日本を訪れており、旅行(インバウンド)、留学、就労などその目的も多様です。それは、日本とは異なる言語、文化、生活習慣、宗教などを背景とした人々を受け入れ、尊重する社会の構築・実現を必要とします。今日では「多様性尊重/多文化共生」と呼ばれるものですが、これは社会福祉の原理としても非常に重要とされています。

本講義では、社会福祉の視点から日本における「多様性尊重/多文化共生」の現状・課題・今後について考えます。

78

まちづくりの社会学

中田 知生 (社会福祉学部福祉計画学科准教授)

近年、「まちづくり」という言葉はさまざまなところで使われるようになりました。この講義の目的は、社会学的な概念を用いて、町内会や集落などを中心としたまちづくりについて説明をすることです。このとき、まちづくりの手法のひとつは、「公共」、すなわち、資金や労力を出し合い、時間や場所を共有する仕組みを作っていくことです。公共を作るためには、住民間でその公共を作る約束をすることが必要です。これを規範と言います。では、住民間の結びつきが強く、この規範が強ければ、まちづくりはうまくいくのでしょうか。そうではありません。規範が強すぎると、その規範には入れない人が出てきて、その人が仲間外れになる可能性もあるからです。この講義では、実際に、全国の集落を見て歩いた経験を写真などで示しながら、各地のまちづくりにおける成功例、失敗例などを取り混ぜながら、どうしたら持続可能な集団を維持することができるのか、ということを経験的な見地から考えていきたいと思います。

75

社会保障入門

～<支え合いの仕組み>としての年金・医療・介護～

伊藤 新一郎 (社会福祉学部福祉計画学科教授)

私たちの社会は自分の人生や生き方に自らが責任を持つことを原則としています(生活自己責任原則)。しかし、人生には多くのリスクが存在します。例えば加齢、疾病・障害、失業、死亡などがそれです。もしもの時のために普段から各自で備えておくことは大切ですが、それだけでは十分ではない/十分に備えることができない事柄も少なくありません。退職後の生活費を今から貯蓄する、一生健康でいられるようにする、これらは個人の努力だけで実現することが難しいものでもあります。

本講義では、私たちが安心して暮らしていくために<支え合いの仕組み>として存在する社会保障の目的・役割・課題について考えます。

79

福祉は“恥ずかしい”?

松岡 是伸 (社会福祉学部福祉計画学科准教授)

福祉制度を利用することは“恥ずかしい”のか？

自分自身や他者からこんな思いを伺い知ったことはないでしょうか。

本講義では、福祉制度を利用することで感じる恥ずかしさとは何かについて解説を踏まえ、みなさんと考えていきます。同時に、福祉制度を利用する人々を他者や地域、社会はどのように見て、感じているかについても考えていきたいと思います。これらを通じて、福祉制度や相談支援におけるスティグマ(恥辱感)や偏見、差別等について理解を深めていきたいと思います。

福祉・健康

80

現代日本を蝕む貧困

松岡 是伸 (社会福祉学部福祉計画学科准教授)

みなさんは「貧困」についてどのように理解しているでしょうか。衣食住に欠如する状況のことでしょうか。確かに衣食住に欠く状態は貧困であるとも言えます。しかし私たちはそのような貧困にある人々を街中や通学路、知り合いの中などで出会うでしょうか。もしかしたら我々がわからないだけで既に出会っているかもしれません。

そこで本講義では現代日本を蝕む貧困について理解を深め、それに抗する人々や専門職、制度等について言及し、みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

84

精神に障害を抱えた人を、理解するには？

中村 和彦 (社会福祉学部福祉臨床学科教授)

いまや、国民の4分の1の人が、一生涯の間に、何らかの精神的な疾患を抱える時代になりました。それはつまり、身近な問題として考えなければならぬことを意味しています。疾患の重い軽いに差はありますが、罹患したことにより、その後、多くの人々は、生活上の課題を抱え、「生きづらさ」の中で、不安な日々を送ることになります。

本講義では、精神に障害を抱えた人の「生活障害」と、それへの支援について、わかりやすく解説します。

81

「社会保険」って知っていますか？

～社会保障制度入門～

林 健太郎 (社会福祉学部福祉計画学科専任講師)

日々の新聞・ニュース等で「社会保障制度」という言葉を耳にすることが多くなってきました。しかし、「社会保障制度とはどのような制度か」と聞かれて、すぐに答えられるでしょうか。「困っている人を助ける国の制度？」間違いではありませんが、実は「社会保障制度」は、「人々の支え合いを仕組み化する」という側面も持っています。

本講義では、「社会保障制度」を理解するために、この「仕組み化」の側面に注目して解説をしていきます。そして、「社会保障制度」を実施するためによく用いられている「社会保険」という仕組みについて解説していきながら、どのような方法で「仕組み化」を行っているか、近年それがどのような困難に直面しているかを解説していきます。

85

こころの病(精神疾患)を理解する

永井 順子 (社会福祉学部福祉臨床学科教授)

こころの病(精神疾患)は、以前よりも私たちの生活のなかで身近な病気となっていますが、それでも誤解や偏見が根深くあります。

精神疾患は若い世代から高齢者まで、人生のさまざまな段階で直面する可能性のある病気であり、病気や治療、福祉サービスについて知っておく意義があるでしょう。

本講義ではいくつかの精神疾患の特徴などを紹介し、病気について知っていただくとともに、病気に対する誤解や偏見があるのは何故かを一緒に考えていきたいと思えます。

82

障害者福祉の考え方

田中 耕一郎 (社会福祉学部福祉臨床学科教授)

障害者福祉の基本理念として、「ノーマライゼーション」と「社会モデル」の考え方を解説します。「障害者の生きづらさ」の原因を社会の中に見出してゆこうとするこの二つの考え方によって、障害者福祉の法律や制度、障害者支援の方法や内容がどのように変化してきたのか、また、今後、障害者が市民としてのさまざまな権利を保障され、市民にふさわしい社会生活をおくるためには何が必要なのか、という点について考えたいと思えます。

86

少子高齢化×人口減少=日本の将来

～どんな地域になるの？どう生活するの？～

畑 亮輔 (社会福祉学部福祉臨床学科准教授)

日本の中で「少子高齢化」や「人口減少」という言葉はよく聞かれますが、それらの具体的な問題についてはなかなか見えてきません。それは、「少子高齢化」や「人口減少」という問題が、日本という大きな規模では分かりにくいということでもあります。つまり、本来的にはそのような問題は、人々が生活をしている地域規模で考える必要があります。

この講義では、皆さんが実際に生活をしている地域に焦点を当てながら、「少子高齢化」と「人口減少」の現状を確認するとともに、今後の予測についても展望しながら、若い人も高齢者も幸せに暮らしていくためにはどうすればよいのかということを考えてみたいと思えます。

83

福祉臨床(ソーシャルワーク)とは、何をするのか？

中村 和彦 (社会福祉学部福祉臨床学科教授)

社会の中には、様々な生活上の課題を抱えた人々が存在しています。その中には、自分自身や周りの人の手助けだけでは、課題の解決に至らず、日々の暮らしに不安を抱え、苦しんでいる人々が大勢います。「ソーシャルワーク」とは、そのような人々の思いを汲み取り、専門的な知識と技術によって、課題の解決につなげていく実践活動です。

本講義では、「ソーシャルワーク」が持っている基本的考え方について、わかりやすく解説します。

87

障害について知っていますか？

～50人に1人の確率～

田実 潔 (社会福祉学部教授)

- 障って何だろう。
肢体不自由は障害、では病気は？あるいは毛髪のうすい人は？
- みんなの周囲には実に多くの障害を持った人がいる。
- 不自由なのは不便なのか？
- 優しい社会は障害を持った人よりも普通の人にも必要！？

※今年度開講せず、次年度以降開講予定

88

障害(がい)のある人とともに作る社会とは？

田実 潔 (社会福祉学部教授)

障害を理由として障害のある人を差別してはならない、という法律があります(障害者差別解消法)。頭では理解できるけど、実際にその法律が目指しているものは何でしょう？

具体的に大学で取り組んでいる事例を紹介しながら、障害のある人とともに作る社会について考える機会としませんか？

経済経営

92

日本経済の160年

平井 廣一 (経済学部経済学科教授)

日本経済が、近代化を目指していただいた160年の年月がたちました。それまで日本は農業と簡単な繊維産業はありましたが、工場や企業、銀行などはありませんでした。ではそのような後れた日本経済は、どのようにして「ものづくり」大国になったのでしょうか。割と簡単に出来たのでしょうか。あるいは苦難の道のりだったのでしょうか。

この講義では、この160年にわたる日本経済の歩みを簡単なプリントを使ってお話しします。

89

体力向上と日常生活習慣

星野 宏司 (経済学部教授)

体力や健康づくりの基本は、食事、運動、休養が3本柱です。その中で、食事はバランスの良い食事を規則正しく摂取することです。特にトレーニング後の食事は糖質の補給はもとより、タンパク質の摂取が重要です。運動は、強度、種類、時間、頻度を考えて実施計画を立てなければなりません。休養は、睡眠と筋肉及び精神的緊張をリラクゼーションすることです。

このような内容を易しく講義します。

93

日中経済の100年

平井 廣一 (経済学部経済学科教授)

第1次世界大戦がヨーロッパで始まり、日本はその戦争に加わって、ドイツに宣戦布告をします。ところが日本が戦争を始めた本当の理由は、敵国であるドイツに打撃を与えることではなく、中国にあった自分達の「権利と利益」(これを權益といいます)を守ることだったのです。実は、この中国に存在した日本の「權益」こそが、その後の日本と中国の関係を決定づけることになったのです。

この講義は、この秘密を明らかにして、その後の日本と中国の経済関係の歩みを振り返ります。

90

ケアすること されること

藤原 里佐 (短期大学部生活創造学科教授)

自分があかちゃんだった時のことを覚えていますか???

家族の人から、あかちゃんのころの様子を聞いたことがあります。人は生まれてからしばらくの間、日常生活の全てにわたって、ケアをうけています。寝返りも、排泄も、食事も、着替えも誰かの手によってなされているのです。

そして、人生の最期においても、人は多かれ少なかれ、医療や介護のケアを必要とします。

元気で、なんでも自分の力でできるときには忘れがちな「ケア」について、それを支える側、必要とする側、両方の視点から考えてみたいと思います。

94

サキヨミの経済学

～ゲーム理論と美人投票～

勝村 務 (経済学部経済学科准教授)

他の人の行動を先読みして、自分の行動を決める。そうしたとき、わたしたちはどのように行動を決め、そしてそれはどのような結果をもたらすのでしょうか。ここに着目するのが、ゲームの理論と「ケインズの美人投票」という考え方です。

この講義では、まず前半に、ゲームの理論(合理的に行動すると?)、そして、そこから発展している行動経済学(ひとは必ずしも合理的には動けない?)が考えていることについて、ごく簡単に紹介します。

後半では、「ケインズの美人投票」を体験してもらうことを通じて、現代の社会についていっしょに考えていきます。

91

子どもは誰のもの？

藤原 里佐 (短期大学部生活創造学科教授)

子どもは誰のもの？何才までが子どもなのでしょう。子どもは出自を選ぶことができません。「どこの家に生まれたいか」「誰に親になってもらいたいか」「どんな家庭環境で育ちたいか」という希望は、聞かれることはありません。それゆえに、全ての子どもが健やかにのびのびと成長するよう、社会が責任をもって、子どもを見守らなければならないのです。

残念ながら、現代社会においても、子どもの健全育成が阻害される要因があります。毎日のように報道されている「子どもの教育」「子どもの格差・貧困」「子どもの生きにくさ」等々、この世に生まれ、愛し尊ばれるべき子どもが、笑顔を失っています。子どもをとりまく社会状況の変化とその背後にある問題を一緒に学んでいきたいと思ひます。

95

オリンピックを文化経済学で考える

～スポーツの文化経済学～

勝村 務 (経済学部経済学科准教授)

文化経済学は、芸術やスポーツなど文化が開く社会はどうすれば実現できるのかを考える、比較的新しい学問です。

2020年の東京五輪は、なぜ7月から8月にかけて行われるのでしょうか。前回の東京五輪(1964年)は10月の開催でした。東京五輪では、競技会場についての紆余曲折もニュースになりましたね。また、札幌は、冬季五輪の2度目の招致をいま目指しています。

こうしたニュースを出発点に、オリンピックを入口として、スポーツと経済・社会の関係について考えてみましょう。

経済・経営

96

人類はたった1秒で地球を破壊した ～地球崩壊のシナリオ～

野原 克仁 (経済学部経済学科准教授)

毎日、当たり前のように太陽が昇り、空は青く白い雲が流れ、胸いっぱい呼吸し、お腹いっぱい食事をとり、健康的で幸せな日々を送ることができている…。しかし、多くの人気が付かないところで、地球は崩壊のシナリオを歩んでいます。未来の地球では、今の当たり前が当たり前ではなくなっている可能性が高いのです。

この講義では、特に地球温暖化問題を取り上げ、経済学を武器にその病巣にメスを入れます。経済学で地球環境問題に立ち向かえる楽しみを、是非実感してください。

100

経済学のあたりまえを疑ってみよう!

柴崎 慎也 (経済学部経済学科専任講師)

みなさんはこれまで、中学校の社会や高校の政治・経済、現代社会で、需要供給の法則や信用創造などの経済学の考え方を学んできました。もっとも、経済学をはじめとする社会科学には本来、さまざまな考え方が存在しています。こうした学問的な多様性は、残念なことに、昨今の教育内容からは失われてしまっているのが現状です。とはいえ、ガリレオの言を俟つまでもなく、学問的な正しさは多数決で決まるわけではありません。

本講義では、高校までで学ぶあたりまえの経済学を、クイズ形式を通じて一緒に疑っていくことで、経済学が本来的にもつ多面的な面白さを学んでいきます。

97

同じ大地につながる生き物たちの悲鳴

野原 克仁 (経済学部経済学科准教授)

地球上で営まれている生き物たちの小さな命のサイクルは、普段私たち人間には何の価値もないように思われます。しかし、ハチの受粉行動だけを取りあげても、巨額の経済価値を生み出しているのです。例えば、スイス1国では約170億円もの価値が生み出されているという研究結果があります。今、地球上の生き物たちは、人間の身勝手な開発により悲鳴をあげています。同じ地球に生きる仲間の声に耳を傾けるために、経済学ができることを考えてみましょう。

101

さまざまな曲線を知って 「経済」にアプローチしよう!

柴崎 慎也 (経済学部経済学科専任講師)

需要曲線や供給曲線など、みなさんはこれまででも経済学で使用する曲線(カーブ)について学んできました。「経済」という対象はとて複雑で、その中でただ生活し、漠然と眺めているだけでは、その仕組みや現状を把握することは到底できません。しかし、これまでの経済学は、そうした複雑な「経済」を、ときにはデータを集め、またあるときには論理的な思考を用いて、曲線およびそれぞれで示される図ないしグラフのかたちで分かりやすく説明してきました。

本講義では、経済学ないし近接する学問領域でしばしば引き合いに出されるさまざまな曲線を紹介することによって、複雑な「経済」にアプローチしていきます。

98

地球が抱える問題に、 環境経済学ができること

野原 克仁 (経済学部経済学科准教授)

地球環境問題とは、何のことを指すのでしょうか?温暖化のことでしょうか?実は、地球環境問題とは多くの問題が複雑に絡み合って形成された問題なのです。地球環境の破壊は、人間の経済活動の発展が引き起こしたと言っても過言ではありません。それならば、経済学こそが最良の処方箋になるはずですが。経済学とはどのような学問なのかを簡単に解説し、環境経済学が地球環境問題解決に向けて、何ができるかを実験を交えながら分かりやすく紹介します。

102

キミにもできる会計的発想 ～「金持ち父さん貧乏父さん」の教え～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

大ヒットしたロバート・キヨサキ氏の『金持ち父さん貧乏父さん』。この本は、お金持ちになるための必要な「知識」や「考え方」を説いた本です。その知識は会計学ですし、考え方こそが会計的発想に基づいています。

この講義では、ロバート・キヨサキ氏の主張を紹介しながら、生活する上で役に立つ会計的発想や、大学で学ぶ会計学を家計管理という視点から紹介します。

ただし、この講義を聴いたからといって金持ちになれるというわけではないので間違えなく。

※この講義は、商業科・簿記を勉強している生徒向けの内容です。

99

経済学史入門

楠木 敦 (経済学部経済学科専任講師)

この講義では経済学史という学問分野の意義の一端を紹介したいと思えます。経済学史とは、「経済学」の歴史を研究する学問分野です。ひとくちに経済学と言っても、さまざまな専門分野から構成されており、多様な考え方が混在しています。それゆえに、経済学とはどのような学問であるかということについても紹介することができます。

この講義が、高校生のみならず、経済学という学問に興味を抱ききっかけになればと思います。

103

会計はあなたを救う!

～どんな組織でも必要とされる会計知識～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

会計イコールお金の計算というイメージを持っている人が多いと思います。お金の計算は特殊なことでしょうか。いいえ、皆さんのごつかい帳やお母さんが付けている家計簿もお金の計算ですし、多くの人が就職しようと思っている会社で行っているのもお金の計算です。さらにいえば、公務員が勤めている市役所や道庁などの行政機関、ケアマネージャーが勤めている社会福祉施設、学校法人での会計がクローズアップされています。それに伴って、どんな職に就こうとも、これまで以上に会計知識を持った人材が求められています。

この講義では、どんな組織でも必要とされる会計知識の一端を紹介します。この講義を受講すれば、北星学園大学で会計を学びたいくなる!

104

「さおだけ屋」と「食い逃げ」から考える会計の話

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

最近では会計をやさしく解説した書物がたくさん出版されています。それらの書物は「会計的思考方」を説明したものと「決算書の読み方」を説明したものに大別できます。

本講義では、「会計的思考方」を解説してベストセラーになった書物で採り上げられているエピソードやクイズに基づいて、生活する上で役立つ会計の発想を紹介します。また、大学で会計学を学ぶための心構えもお話します。

108

経済学と経営学、何が違うの？

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

「将来、〇〇になりたいので大学では経済学部に進学したい」という方は多いと思います。ですが経営学部という学部もありますし、隣接学部として商学部という学部もあります。

ここで問題です。「経済学と経営学の違いを説明できますか？」

この講義では、経済学や経営学について、経済学部でも経営学部でも学ぶ機会がある会計学の観点から眺めることを通して考えます。この講義を聞いてスッキリとして経済学部での学びに備えましょう。

105

牛丼とハンバーガー、どちらがお好き ～経営と会計の味な話～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

「100円ハンバーガーは、いくらで作っているのか」、あるいは「本当に会社は儲かっているのか」を考えたことがありますか？

食べ物の値段には、用意周到な企業戦略が隠されています。この講義では、普段我々が口にしている食べ物の値段がどんな風に決められているかを、会計（製品原価）の観点から紹介します。そしてそこに隠されている企業戦略とはいったい何かを皆さんと一緒に考えます。

この講義を聴くと、絶対友達に自慢したくなりますよ。

109

コンビニを通して、購買心理と 店内の工夫を探る

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

コンビニエンスストアは、比較的狭い売場面積にもかかわらず、食料品や日用雑貨を中心に数千種類にも及ぶ商品が取り揃えられています。これらの商品は、種類別にまとまってレイアウトされていますが、適当に配置されているわけではありません。チェーン店によりそれぞれ特徴もありますが、商品のレイアウト（配置・並べ方など）については、来店客が買物をしやすいように、心理や移動の特徴に基づいた様々な工夫を行っています。

この講義では、コンビニの売場を通して、来店客の買物の際の心理・行動分析とそれに伴うお店の工夫について、いくつかのわかりやすい視点から説明いたします。

106

あなたの知らない世界 ～職業と会計～

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

高校生が聞いたことがない学問領域のひとつが会計学でしょう。もしかすると会計という言葉も聞いたことがないかもしれません。しかし、世の中には会計にかかわる仕事がたくさんあります。しかも会計にかかわる資格検定もたくさんあります。これはなぜでしょうか。

この講義では、大学卒業後の進路（職業選択）を会計学という視点から考えます。

『そんな学問があったのか』と視野を広げ、大学での学びについて考えるきっかけをつかんでもらうことがこの講義のねらいです。

110

コンビニ大解剖！

～商品と歴史について探る～

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

皆さんは、コンビニに何を買いに行きますか？コンビニは、その名称にも表れているように、私たちの生活における“便利な”お店として、私たちの周辺に多く存在しています。このようにコンビニの店舗数が増え、大きく発展してきた大きな理由の1つに、近隣（通学途中なども含む）のお客のニーズを踏まえた商品やサービスを上手く取り入れてきたことが挙げられます。

この講義では、コンビニの定義（特徴）や生まれた経緯・成り立ちとともに、商品構成（何を買うのか？）に焦点を当て、発展してきた要因・理由について探ってみます。また、コンビニチェーンごとの特徴（ネーミングやロゴにもその秘密が隠されています）や歴史についても紹介します。

107

決算書を読んでみよう

大原 昌明 (経済学部経営情報学科教授)

決算書を見る目にはふたつの側面があります。ひとつは複式簿記に基づいて適正な決算書を作成することです。いわば決算書を「作成者の目」で見ているといえます。もうひとつの目的は決算書を「利用者の目」で見ることです。これは財務諸表分析や経営分析といわれ、ビジネス社会ではとても重要になっています。

講義では製造業と情報通信業が公表している決算書を用いて比率計算をしてもらい、決算書から何を読み取ることができるのかを一緒に考えます。（学年は問いませんが簿記学習者向け）

111

人の移動と お店の立地の関係について探る

鈴木 克典 (経済学部経営情報学科教授)

現在、日本国内には非常に多くのコンビニが存在し、場所によっては同じチェーン店が近接して立地しています。どうしてこのように多くのコンビニが立地しているか、ご存知でしょうか？これは皆さんの買物行動・移動の特性（商品の種別や価格、周辺環境&気軽に歩ける距離、行動範囲など）が大きく影響しています。そして、その特性は大規模小売店舗、ショッピングセンター、アウトレットモールの立地やテナント配置、広く考えますとバス停や公園等、生活関連施設の配置でも同じことが言えます。

この講義では、コンビニを中心として、店舗・施設の立地と人間の行動・移動の特性との関係について、実例を挙げながら探ってみたいと思います。

経済・経営

112

私たちの身の回りに広がる ユニバーサルデザイン

鈴木 克典 (経済学部経営情報学専攻教授)

皆さんは、シャンプーボトルに付いている突起をご存知でしょうか？キッチンにある水道の蛇口はどうして今のような形になったのでしょうか？これらは、ユニバーサルデザイン (UD) の一例とされています。UDはすべての人のためのデザインという意味で、多様な人々が使いやすくする工夫のことを指します。近年、このUD (のコンセプト) は、様々な商品・サービス、多くの人々が訪れる交通施設 (空港・駅など) や商業施設、観光地、防災などで活用されています。

本講義では、私たちの身の回りに浸透してきている様々なUDについて説明し、生活をより便利にする「工夫 (UD)」について皆さんと一緒に考えてみます。その「気づき」や工夫は様々な場面で役立ちます。

113

案内サインと 情報提供について考える

鈴木 克典 (経済学部経営情報学専攻教授)

近年におけるインバウンド観光客の増加、また2020年に東京 (を中心として) オリンピック・パラリンピックが開催されることもあり、ユニバーサルデザイン、特に案内サインや絵文字などとも呼ばれるピクトグラムが大きな注目を集めています。

本講義では、ピクトグラムを中心として、案内サインに隠された様々な「わかりやすくする工夫」について、空港・駅などの交通施設、海外の事例にも触れながら、皆さんと一緒に探ってみます。

なお、スマホを活用した案内や交通・移動の概念を大きく変えると言われているMaaSについても少し触れたいと思います。本講義を通しての様々な「気づき」は、皆さんの周辺での工夫にもつながると思っています。

114

ブランドの生き方: 人々を幸せにする商品開発

韓 文熙 (経済学部経営情報学専攻教授)

現代社会は「ブランドが彩る世界」と言っても過言ではありません。

商品開発のアウトプットとしてのモノ (& サービス) を消費者の「生活世界 (lifeworld)」と関連づけ、どのような価値 (魅力) を共感してもらい、どのようにして消費者とブランドとの (強い) 絆を構築できるか、ということについて、(日本を含めた) 世界の様々なブランドの成功事例を取り上げながら、分かりやすくお伝えします。

115

サービス科学と情報技術

林 秀彦 (経済学部経営情報学専攻教授)

私達の身の回りには様々なサービスがあります。既存のサービスに潜む問題を解決したり、新たなサービスを創出したりする取組みが、情報技術を活用して実践されています。

それらの事例を交えてサービス科学について考えます。

- 身の回りのサービス
- サービスとは
- サービス科学について
- 情報技術による問題解決
- 問題解決型サービス科学について

116

「日本マクドナルドvs.モスバーガー」 に学ぶ経営戦略

黄 雅雯 (経済学部経営情報学専攻准教授)

2019年5月22日に発表された日経流通新聞の「第45回日本飲食業調査」によると、日本マクドナルドは2018年度店舗売上高の1位となりました。また、日本のハンバーガーチェーン市場においては、日本マクドナルドとモスバーガーが市場シェアの上位2社です。

この講義では、日本マクドナルドの強み、そしてモスバーガーが日本マクドナルドと対抗するために取った企業行動などを紹介します。この講義を通じて、皆さんが企業の戦略行動を分析するための視点を身につけることを目標とします。

117

「LINE」に学ぶビジネスモデル

黄 雅雯 (経済学部経営情報学専攻准教授)

LINEは、ユーザー同士であれば、無料で音声・ビデオ通話・チャットが楽しめるコミュニケーションアプリです。LINE株式会社の「2019年7-9月期媒体資料」によると、日本国内のLINE利用者数は人口の60%以上をカバーしています。

この講義では、LINEが何の価値をどのように提供するかを紹介します。この講義を通じて、皆さんが企業の「儲けの仕組み」を分析するための視点を身につけることを目標とします。

118

家電リサイクル法と経済学

増田 辰良 (経済学部経済法専攻教授)

大学では法学と経済学とは別個に教えられています。しかし、この2つの学問は人間の行動を観察・考察するという同じ社会科学の領域に属しています。本来、これらの学問は相互に関係しています。この講義では家電リサイクル法 (正式名称「特定家庭用機器再商品化法」2001年4月施行) を取り上げ、法の導入が経済主体に与える効果を説明します。

不用になった1. エアコン、2. テレビ (ブラウン管及び液晶・プラズマ式)、3. 電気冷蔵庫及び電気冷凍庫、4. 電気洗濯機及び衣類乾燥機、を処分するとき消費者=排出者は「収集・運搬料金」と「再生品化費用=リサイクル料金」を支払わなければなりません。経済学ではこうした不用物を「バッド (bads)」と呼んでいます。この場合、不用物とお金はその所有者から取引相手へ一方的に流れます。家庭ゴミの有料化制度もこれと同じ主旨で実施されています。

以下の順番で講義を展開します。
リサイクルとは何か。家電リサイクル法が導入された背景、目的と運用成果。家電リサイクル法が経済主体に与える効果。家電リサイクル法の課題。

119

数学を使って、経済問題を解く

増田 辰良 (経済学部経済法専攻教授)

高校では、「政治・経済」は文科系の科目として、教えられています。しかし大学で学ぶ経済学 (歴史や制度論以外) は理科系の科目に該当します。身の回りにおける経済問題を数学 (四則演算、一次関数、二次関数、三次関数、平方根の関数、指数関数、微分、積分、確率) を使って、解きます。

この講義では、高校2年生で学ぶ「微分 (の概念と操作)」を用いて、具体的に経済問題を解いてみます。

120

「金融政策のしくみ」入門

秋森 弘 (経済学部経済法学科教授)

近年、量的金融緩和政策、マイナス金利政策といった用語が使われるようになり、金融政策にかかわるニュースを見聞きしても、一般の人にとってその内容を理解することが難しくなってきました。

この講義では、金融政策について政策の目的と仕組みについて考えていきます。

124

リーマン・ショックとは何であったのか？

竹野内 真樹 (経済学部教授)

今から12年前の2008年、皆さんがまだ小学校低学年であった頃、リーマン・ショックと呼ばれる経済危機がアメリカで発生しました。それが世界経済に与えた影響はまことに大きく、今も尾を引いているといっても過言ではありません。この危機はなぜ起きたのか、それは過去の経済危機とどう違うのか（あるいは何が共通しているのか）、について解説します。それをつうじて、現代世界経済の枠組みについて考察してみたいと思います。

121

「お金」になりうるモノとは

秋森 弘 (経済学部経済法学科教授)

取引の媒介手段として、古来、人類が使用のお金（貨幣）として、香辛料、金貨、紙幣（兌換、不兌）など様々なモノが使われてきました。そして今日、仮想通貨と呼ばれる新たなお金も誕生しています。

この講義では、お金として使用されるこれらのモノが持つ共通の性質、相違点について考えていきます。

125

なぜ人々はブラック企業・ブラックバイトを辞めないのか？

林 健太郎 (社会福祉学部福祉計画学科専任講師)

近年、「ブラック企業」や「ブラックバイト」が社会問題として取り上げられるようになってきました。こうした企業では、典型的には、人を働かせるに当たって守らなければならない法律（労働基準法・労働契約法など）が守られていません。しかし、法律が存在するにもかかわらず、なぜこうした企業は無くならないのでしょうか？ また、人々はなぜ、このような企業に巻き込まれてしまうのでしょうか？ 「ブラック」だと思えば、辞めてしまえば良いはずなのに…。

この講義では、こうした企業が生きながらえてしまう理由を私たちが働く社会の仕組みから考えていきたいと思います。そして、そのような企業に巻き込まれないために、私たちが考えておくべきことを検討したいと思います。

122

日本企業の生産システム

竹野内 真樹 (経済学部教授)

新聞の経済欄を読むと、一方では日本製造業企業の優秀性がしばしば喧伝されると同時に、他方ではその衰退が取り沙汰されていることも少なくありません。日本企業の強みと弱みは何か？ また、どの産業で強く、どの産業で弱いのか？ この問題には、目先の出来事に振り回されずに、フールにかつ長期的視野から接近する必要があります。本講義では、工場においてモノを造る方法—生産システム—という観点から、国際比較も交えながら考えてみます。

126

日本の経済学者たち

山本 慎平 (短期大学部生活創造学科専任講師)

皆さんは日本語の「経済」という言葉がいつごろできたかご存知でしょうか？ 幕末の開国から、明治の近代化の時代にかけて、日本は西洋の学問や技術をたくさん輸入しました。経済学という学問もこの時に日本に入ってきました。当時の日本の学者たちは、西洋の経済学を学んで、それを日本の近代化に活かしたり、貧困や格差をなくそうとしたりしました。

講義では、戦前期の有名な経済学者たちを数人取りあげ、彼らが西洋の経済学をどのように学び、それを社会の改善にどのように利用したのかについて学びます。そこから現代日本の問題に対する解決策を探ってみましょう。

法律

※10月以降開講予定

123

国際経済に関する常識と理論とのギャップ
～社会的通念は支持できるのか？～

竹野内 真樹 (経済学部教授)

現代において、国際的な経済問題がますます身近になりました。しかしじつは、漠然と人々が当たり前と考えていることが、国際経済学の理論からは肯定できないことも少なくありません。もしあらゆる商品を他国より安く生産できない国があったとしたら、その国は輸出する商品がないということになるのでしょうか？ また、輸出が輸入を上回って貿易黒字を累積させることは望ましいことでしょうか？ これらの問いにイエスと答える人が多いのではないかと思います。こうした問題について解説しながら、国際経済学の一端を紹介し、それによって高校生の皆さんが国際経済学に興味を抱ききっかけを提供できればと思います。

127

契約・法・北方領土

篠田 優 (経済学部経済法学科教授)

落語の三題噺みたいなテーマですが、無理なくこの三題はつながっています。どうつながっているかというところ—

- ① 適法に締結された契約は法律の効力を持つ；
- ② 条約は、国家間の契約である；
- ③ 条約のないところでの領土問題の法的解決は、甚だ困難である；
- ④ 日口間で北方領土問題を決する条約はない；
- ⑤ ゆえに、北方領土問題を解決するには政治的知恵をしぼらざるを得ない；

ということです。講義ではこの5点を膨らませながら、契約と法について考えてみたいと思います。

法律

128

犬の権利と猫の義務

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

動物にも、生きる権利がある。自由に生きる権利もあるし、虐待を受けない権利もある。♪僕らはみんな生きている～、生きているから権利があるんだ～♪冗談ではありません。

権利を研究する専門家の中には、人間以外の動物にも権利があると大まじめに主張する人たちがいるのです。ただし、ここでいう権利は、法に基づく権利ではなく、道徳に由来する権利のことです。

動物にも権利があるとすれば、私たちの日常生活は、一変するでしょう。スポーツとしてハンティングを行うことはもちろん、鶏を狭い小屋に押し込めて飼育することも、犬や猫を去勢することも、みんな動物に対する権利侵害ということになります。

動物にも権利はあるという問題は、人間にだけ権利があるのはなぜかという問題と表裏をなす問題です。常識を疑い、眼鏡を逆さまにかけることから見えてくる真実もあります。さあ、一緒に考えてみましょう。

132

18歳の選挙権

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

選挙に関する法律である公職選挙法が改正されて、選挙で投票できる年齢が18歳に引き下げられました。高校生の皆さんのなかでも、選挙権を持つ人が出てきます。また、憲法改正のための国民投票に参加できる年齢も18歳です。でも、民法という法律では、成人となる年齢はまだ20歳です。18歳は大人、それとも子ども？投票できる年齢が18歳の引き下げられたことをうけて、高校生の皆さんは、主権者として政治にどのようにかかわっていけばよいのでしょうか。政治について考えることは、決して難しいことではありません。日常の問題を通して、選挙と政治について一緒に考えてみましょう。

129

あなたは覗かれている

～プライバシーの危機～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

情報社会は、私たちの生活を便利なものに変えていきます。携帯電話があれば、ほとんどいつでもどこでも友だちと楽しくコミュニケーションできます。インターネットでのオンライン・ショッピングを使えば、お店に行く必要もなく、欲しいものを欲しいときに簡単に手に入れることができます。防犯カメラを取り付ければ、犯罪を未然に防ぐことができるかもしれません。でも、情報社会は監視社会でもあります。便利な道具は、使い次第で私たちの生活を丸裸にする力を持っています。

この講義では、情報社会におけるプライバシーの意義についてできるだけ詳しく解説します。そして、私たち自身が、携帯電話やインターネット、防犯カメラなどの便利な道具をどうやってコントロールすべきかについてお話ししたいと思います。

133

AIと法・倫理

～私たちはAIとどうつき合うか～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

人工知能 (AI) は、私たちの生活の至るところに入り込んでいます。インターネットで本を買えば、AI は、次に読むべきオススメの本を教えてください。たくさんの情報を入力すれば、自分にピッタリの結婚相手も選んでくれます。人間の代わりに仕事も家事も、車の運転だってしてくれます。やがて、AI が組み込まれたロボットが、生身の人間に代わって戦争する時代もくるかもしれません。私たちはAI とどうつき合っていくべきなのでしょう。この講義では法と倫理の観点から考えます。

130

デザイナー・ベビー

～魔法か、それとも悪魔の技術か?～

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

親ならば、子どもに“賢くなってほしい”、“可愛くなってほしい”と願うはず。だから、親は、子どもを塾に通わせたり、きれいな服を着せたりします。ならいっそのこと、遺伝子を操作して、自分好みの子どもを“デザイン”してはどうでしょう。

現在「ゲノム編集」という技術が開発されて、より簡単に、より正確に遺伝子を操作することが可能になりつつあります。記憶力を高めたり、目を二重にしたり、「ガタカ」という映画を見ながら、“デザイナー・ベビー”をめぐる法や道徳の問題について一緒に考えてみましょう。

134

売買契約の考え方～ローマ法編

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

日本民法の淵源は、古代ローマ法にあります。古代ローマでも、現代と同様、日常的に売買契約が行われていました。現代と違うところは、奴隷 (人間) が売買契約の対象とされたこと。売買契約の対象とされた奴隷に、逃亡癖があったり、窃盗癖があった場合、その売買契約の効力はどのようになったのでしょうか。古代ローマの売買契約のルールを知ることは、現代の日本民法の売買契約のルールを知るにも繋がります。

本講義では、高校生たちと一緒に、古代ローマの売買契約を素材に、法的な思考法、さらには、現代日本民法の売買契約のルールを学んでいきます。一つの講義で法的な思考法と歴史を学ぶことができるお得な講義です。講義は、グループワークで進めていきます。

131

家族における男女の平等

岩本 一郎 (経済学部経済法学科教授)

素朴な疑問ですが、結婚できる年齢が、男性と女性とで違うのはなぜでしょうか。女性は、男性とは違って、離婚した後すぐには再婚することはできません。女性は、これまで離婚後300日再婚を待たなければなりませんでした。最高裁はこの法律の規定の一部を違憲としました。最高裁はどのような理由で違憲としたのでしょうか。また、結婚すれば夫と妻のどちらかの姓にするのが当たり前のように思いますが、世界の国々ではどうなっているのでしょうか。このような家族をめぐる男女の平等の問題について一緒に考えてみましょう。

135

お金の貸し借りについて ～日常編

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

親子でのお金の貸し借り、友人とお金の貸し借り、など、高校生の日常でも、お金の貸し借りは、よくあることだと思います。借りた側が、借りたお金を返してくれれば、問題はありませんが、返してくれない場合、トラブルが発生します。本講義では、お金の貸し借り契約の契約書を作成しながら、お金の貸し借りの法的な構造とその怖さ (法律面) を、高校生と一緒に考えていきたいと思います。さらに、お金の貸し借りを通じて、法的な思考法についても、伝えることができれば、と思います。講義は、グループワークで進めていきます。

136

お金の貸し借りについて ～会社取引編

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

会社が、企業活動を展開していくためには、お金が必要になります。会社のお金の調達方法の一つに、金融機関からお金を借りるという手段が考えられます。

本講義では、会社と金融機関とお金の貸し借り契約に着目して、お金の貸し借り契約の契約書を作成しながら、お金の貸し借り契約の専門的な内容を学んでいきます。素材は、一会社と一金融機関のお金の貸し借り契約ですが、それをきっかけに、企業間取引の法的構造や、お金の流れも学ぶことができるでしょう。講義は、グループワークで進めます。

140

契約法務入門

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

売買契約書を素材にして、取引に関わる法的な思考方法と知識、そして、取引実務についても学んでいきます。講義は、受講者とのソクラテス・メソッド(問答形式)で進めていきます。予備知識は必要ありません。受講者の常識感覚で考えて答えていただければと思います。卒業後、新社会人として取引社会に出ていく高校生や、消費者被害に備えたい一般の方にも有意義な講義です。受講者のニーズに合わせて、契約書の素材・講義の仕方をアレンジすることも可能です。

137

親子とは何か ～親子法のヒューマニズム

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

近年、親子に関わる画期的な判例が多く出されています。たとえば、嫡出でない子の法定相続分に関する違憲判決や、性同一性障がいによる性別変更を受けた夫と妻の間で生まれた子の嫡出推定に関する判決などです。それらの判例を素材に、民法が予定する「親子」とは何なのか、裁判所は「親子」をどう捉えているのか、さらには、「親子」を法的にどのように考えていくべきなのか、について、高校生と一緒に、グループワークで考えていきます。各人の価値観にも関わるデリケートな問題ですが、それを敢えて考えることで、「事実」と「法(法律)」との緊張関係を伝えることができれば、と考えています。講義は、グループワークで進めます。

141

ネゴシエーションを体験しよう

長屋 幸世 (経済学部経済法学科教授)

もし、友達に貸したモノが壊れて返ってきたら。もし、隣の家の庭木から、大量の落ち葉が舞い落ちてきたら。皆さんは、一体どのように対応するでしょうか。紛争の種は身近な所にあります。そして、その解決方法も様々です。

この講義では、基本的な紛争解決方法であるネゴシエーション(交渉)の実践を通じて、紛争の解決を試みると共に、そこで法律がどのような役割を果たしているのかを考えます。

138

災害復興法学のすすめ

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

2011年3月11日、東日本太平洋側一帯を東北地方太平洋沖地震による大津波が襲い、壊滅的な被害が生じました(東日本大震災)。ところで、北海道では、津波による災害について、北海道南西沖地震による奥尻町の津波災害の経験を持っています。奥尻町の津波からの復旧・復興においても、東日本大震災による復旧・復興と同じような法律上の問題が生じていました。

本講義で、奥尻町が、それらの法律上の問題、とくに土地問題をどのようにクリアーしていったのかについてフォローしたいと思います。奥尻町の復旧・復興の経験から学べることはたくさんあります。

142

お金がない!

長屋 幸世 (経済学部経済法学科教授)

お前の物は俺の物!…とはいかないのが、この世の中。借りたものはきちんと返さなければなりません。それは、お金だって同じ。

この講義では、二人の登場人物による、お金の貸し借りをめぐる物語を、法律の視点から解説します。なお、ストーリーは、皆さんの選択で変わります。果たして、どんな結末が待っているのでしょうか!?

139

卒業後の人生・生活を 考えてみましょう

足立 清人 (経済学部経済法学科教授)

高校または大学を卒業したら、自分でお金を稼いで、生活していかないとなりません。卒業後、就職をして、その給料で、生活をしていくとなると、どのくらいお金がかかるのか。学生時代に、奨学金を借りていたら、その返済は…。就職後、長期休みに、海外旅行に行けるのか…などなど。就職後の給料をもとに、家計簿をつけながら、高校または大学卒業後の生活を考えていきます。そこから、皆さんが、将来、どういう仕事をしたいのか、どう生活したいのか、そして、どういう人生を歩んでいきたいのかなどを、皆さんと一緒に考えることができれば、と思います。

143

ワインのブランドと価格のはなし

萩原 浩太 (経済学部経済法学科教授)

その昔、といっても30年ほど前、ワインといえば輸入物で、その値段は一本4~5,000円ととても高く、普段は飲めるものではありませんでした。しかし、ある時期から急に安くなり、今では学生にも気軽に飲まれています。むしろ道産をはじめとする国産ワインの方が高いくらいです。どうしてこうなったのか。実は、そこにはワインのブランドに関する法律(商標法)や独占禁止法といった法律の働きによるところが大きいのです。

講義ではブランドと価格をめぐる法律の話をしたと思います。

※10月以降開講予定

法律

144

株式会社のしくみ

伊東 尚美 (経済学部経済法学科准教授)

高校生の皆さんのご両親は会社で働いている場合が多いでしょう。また、皆さん自身も多くは、高校、大学卒業後に会社へ就職することになるでしょう。このように、会社は、実は身近なものであるといえます。

この講義では、4種類の会社のうち、株式会社に的を絞って、株式会社がどのようにして設立され、運営されているのかについてわかりやすく説明をします。

145

高校世界史から法律学への架け橋

竹田 恒規 (経済学部経済法学科専任講師)

法律学の中でも、国家権力と私たちの関係を考察する公法学（憲法・行政法など）は特に、高等学校で学習する世界史と密接な関係にあります。公法学は、近代市民革命（代表例がフランス革命）の銃声の中で生まれたのです。世界史で学習する「過去」がどのように、「現在」の国家につながっているのか。「現在」の公法学が「過去」の世界史の何を基盤にしているのか。とかく、無味乾燥な「暗記」に陥りがちな歴史の学習を、「現在」の法学が直面している課題と結びつけることで、活き活きとした学習科目へと変えるお手伝いをします。

146

法は美しい街づくりの手助けになるのか？

竹田 恒規 (経済学部経済法学科専任講師)

法律学の中でも行政法は、私たちの日常生活と密接な関係にあります。魅力あふれる都市景観や豊かな農村風景。時には美しい景観を破壊する屋外広告物。静かな住宅街のど真ん中に突如として建設されるタワーマンション。街づくりは、法学とどのように関係しているのか。現在の法制度は美しい景観を作り出せるのか。そのようなことを身近な実例を参考に考えてみたいと思います。

国際関係

147

平和構築とは何か

野本 啓介 (経済学部経済学科准教授)

平和構築というのは耳慣れない言葉かもしれませんが、戦争・紛争・大災害などによって滅茶苦茶になってしまった国・地域を立て直していくための総合的な活動・支援を表します。世界中で紛争などが起こり多くの人々が苦しんでいますが、紛争などが終わってもすぐに平和な暮らしが戻ってくるわけではありません。こうした国々では、物や施設が壊れたり失われたりするだけでなく、政治・経済・社会の仕組みやルール（目に見えないもの）が壊れたり失われたりしており、これが復興の大きな障害となっています。この講義では、紛争などの現状はどうなのか、紛争後の国・地域の状況はどうなっているのか、平和構築ではどのような活動や支援が行われているのか、社会のルールが失われるとどのように大変なのか、などについてお話しします。

国際関係

148

世界の子どもの現状

～私たちに何ができるのだろうか～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

世界には経済的に豊かな国がある一方で、学校に通うことができない子どもも多く存在しています。

この講義では、子ども兵士と呼ばれる子ども達に焦点を当てて、世界が現在抱えている貧困や紛争の問題について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

149

平和学入門

～「戦争の世紀」から「平和の世紀」とするために～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

北星学園大学の海外協定校の一つである Manchester University (米国インディアナ州) は、1948年という第二次世界大戦が終結してから3年後という時期に、世界で初めて学部レベルで平和学専攻を設けたことで知られています。同大学のプログラムは、その後平和学や紛争に関するプログラムを設けた世界の諸大学に大きな影響を与えました。この講義では、冒頭に戦争だけがなくなるだけでは平和の条件としては不十分であり（消極的平和）、貧困や人権、教育を受ける権利等の諸問題が解決して初めて平和となる（積極的平和）と述べた Johan Galtung 教授の平和論を紹介し、その後、皆さんとともに地球的問題群と呼ばれる私たちが直面する世界の諸課題について、一緒に考えてみたいと思います。

150

紛争解決学入門

～身近な人間関係から国際紛争までを扱う学問の魅力とは～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

紛争解決学 (Conflict Resolution) という学問は、1989年の冷戦終結後に急速に体系化されてきた学問領域です。最近では、特に欧米の大学院において紛争解決学で学位を取る人も出ており、北星学園大学の卒業生でイギリスの大学院において紛争解決学で修士号を取得した人も複数います。紛争解決学には、国際関係論や国際政治学のみならず、実は心理学やコミュニケーション学等の知見も応用されています。理論とともに現場を大切にすることの紛争解決学の全体像について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

151

地球的に考えて地域で行動する (Think Globally, Act Locally) ために

～高校生ができることは～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

地球的問題群と呼ばれる私たちが直面する諸課題には、環境や貧困などが山積しています。また、「グローバル化」という言葉も私たちの日常の中でよく聞かれるようになりました。

この講義では、「宇宙船地球号 (Spaceship the Earth)」と述べた Kenneth Boulding 等の言葉を紹介した上で、身近なところで出来ることを一緒に考えてみたいと思います。

152

国連の創設に関わった Andrew Cordierが歩んだ道とは

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

Andrew Cordier は北星学園大学の海外協定校の一つである Manchester University (米国インディアナ州) の卒業生であり、1944年にアメリカ国務省に招聘されるまでは同大学の教授をしていました。実は彼は、国連憲章の起草に関わり、1945年に国連が出来てからは職員としてその創設期を支え、ダグ・ハマショールド事務総長の補佐官をしていたこともありました。国連退職後は米国コロンビア大学の国際関係学研究科の教授(研究科長)を経て総長も務めています。Cordier の人生を振り返り、国連の歴史について一緒に考えてみたいと思います。

156

アメリカやイギリスの大学での学び方 ～「英語を学ぶこと」と「英語で学ぶこと」～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

私は大学生の時にアメリカの大学で1年間交換留学生として学び、そして大学院修士課程をイギリスの大学院で過ごしました。現在も研究調査等のために毎年海外の大学へと足を運んでいる経験を踏まえて、アメリカやイギリスの大学(大学院)での学び方について話をしたいと思います。その際には、「英語を」学ぶことと「英語で」学ぶことの関係性についても皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

153

身近なものから日本と 東南アジアの関係を考える

浦野 真理子 (経済学部経済学科教授)

東南アジアをはじめとするアジアの国々と日本のかかわりを身近な事例を中心にお話します。日本は東南アジアから多くの自然資源、食べ物、繊維製品を輸入し、東南アジア諸国は、日本企業が生産する機械や自動車などを買ってくれるお得意様です。また、日本の多くの企業は、ベトナムなど東南アジアの労働力の安い地域に工場を建てています。

しかし、日本と東南アジア諸国との関係には、進出企業の労働問題、エビ、木材生産に伴う環境破壊など様々な問題も指摘されています。日本と関わりの深い東南アジアという地域との関係を勉強することは、私たちが暮らす日本の経済や社会についてよりよく知ることにつながります。

157

アメリカの小学校では、子どもたちは どのように学んでいるのだろうか

～English LanguageとMathを例として～
片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

私は2016年度にアメリカの大学で1年間在外研究をしていたのですが、その際に現地の小学校の授業を頻りに観察する機会に恵まれました。その経験を踏まえ、実際にアメリカの小学校の授業で使われていた小学校2年生の English Language (日本の国語に相当) と Math (算数) の授業プリントを一緒に解いてみたいと思います。その際には、「論理的に考えることの大切さ」と「知識を身につけることの大切さ」の両方を重要視していることについても説明をしたいと思います。

154

教育学入門

～子どもから大人まで、人の育ちを考える学問の魅力とは～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

教育学は、学校教育のみを対象とした学問ではなく、例えば就学前教育や生涯教育、そして国境を越えた教育であるグローバル教育など、実に大変幅広い対象を研究する学問領域です。

この講義では、「教育とはそもそも何だろうか?」「大人になるということは何を意味するのだろうか?」という問いを共に考え、そして教育学の魅力について紹介をしたいと思います。

158

先生になろう!

～大学での学びに向けて～

鳴海 昌江 (文学部准教授)

教師は、子どもが自分の未来を創る時間を共に過ごし、感動を分かち合うとても素敵な仕事です。先生になりたいなと思っている皆さん。皆さんは教師の仕事とはどのようなものなのか、教師になるためにはどうすればよいのか、知っていますか?

また、これからの教師に求められる資質能力にはどのようなものがあるのか考えてみたことがあるでしょうか。

大学の教職課程で学ぶ実際の講義をちょっとのぞいてみませんか?そして、皆さんの高校時代をどのように過ごしていけばよいのか、一緒に考えてみましょう。

155

「大学の学び」の基礎となる「高校の学び」 ～知識を身につける大切さ～

片岡 徹 (文学部心理・応用コミュニケーション学科准教授)

この講義では、高校での学び方と大学での学び方の「違い」と「共通点」について、かつては中高の教員をしていた私の経験を踏まえ、皆さんに話をしたいと思います。また、大学での学びである少人数教育の「ゼミ活動」についても、私のゼミを例に取りながら紹介したいと思います。この講義のキーワードは、「知識を身につける大切さ」となります。なぜ私たちは学ぶ(学び続ける)のか、ということについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

159

大学で学ぶ意味:社会科学をとおして 社会の仕組み・つながりを理解する

野本 啓介 (経済学部経済学科准教授)

大学では何を学ぶのでしょうか。学部や学科はどのように選んだらいいのでしょうか。一口に大学といっても、学問分野(学部・学科)によって内容だけでなく、その目的なども異なります。経済学、政治学、法律学、国際関係論(学)などの社会科学の分野では、一言で言うと社会・世の中の仕組み・つながりを理解することが目的だといえます。

この講義では、社会科学の分野について、どのようなことを何のために学ぶのか、これらを学ぶとどのような力がついて、どのような職業と結びつくのか、他の学問分野との違いは何か、などについてお話しします。

教育

160

大学教育とは何か？

楠木 敦 (経済学部経済学科専任講師)

大学教育がどのようなものであるのか、またはあるべきかということに関しては、さまざまな見解があります。

この講義では、その多くの見解の中の一つとして、経済学者としても有名なジョン・スチュアート・ミルの大学教育論を紹介します。具体的には、ミルのセント・アンドルーズ大学名誉学長就任講演を採り上げます。ミルの考える大学教育の理念に接することが、高校生のみならず、大学教育の意義を考え始めるきっかけになればと思います。

161

教育におけるテクノロジーの役割：未来の学校はどうなる？

金子 大輔 (経済学部教授)

現在、教育の世界ではさまざまなテクノロジー（技術）が利用されています。もちろん、コンピュータやインターネットなどの情報通信技術だけがテクノロジーではありません。テレビ、映画、黒板、チョーク、紙の教科書もテクノロジーです。実際には、教育はテクノロジーの発展と共に大きく変わってきたと言えるでしょう。

本講義では、教育におけるテクノロジーに注目して、その歴史や変遷を紹介します。また、新しいテクノロジーを利用している教育現場の事例なども参考にしながら、未来の学校の姿をみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

162

先生のおしごと(教職入門)

田実 潔 (社会福祉学部教授)

○教師になるにはどうしたら良いの？
＜成績優秀じゃないとダメ？＞

○先生のおしごとって何？
長い休みや土・日休みでうらやましい？

○どんな教師が求められているのでしょうか
求められる教師像って、本当に理想の教師像？

情報

163

eラーニングシステムを使った学習体験

中嶋 輝明 (文学部教授)

必ずしも教室にいらなくても、Web上に用意されている教材を使って好きなときに、好きなペースで学習を進める、eラーニングとよばれる学習が広がってきています。eラーニングシステムを使うと、学習教材の閲覧、小テストの実施、掲示板への書き込み、レポートの提出といった作業を行うことができます。このeラーニングシステムを体験してみましょう。

情報

164

ソーシャルメディアによる新しい「つながり」

金子 大輔 (経済学部教授)

有名人のブログを読む、LINEでメッセージをやりとりする、YouTubeで動画を公開する、Instagramでお気に入りの写真を知り合いに見せる・・・パソコンやスマートフォンの普及により「ソーシャルメディア」が注目を集めています。政治や社会でもソーシャルメディアの果たす役割は大きく、たとえばトランプ米大統領のツイートなどは世界的な注目を集めています。

この講義では、急速に発展を続けるインターネットの世界の中でもソーシャルメディアに着目します。次々と登場する新しい技術は、私たちの生活にどのような影響を与えているのでしょうか。みなさんと一緒に考えていきたいと思っています。

165

コンピュータ動作の仕組み

佐藤 友暁 (経済学部経営情報学科教授)

現在、私達が使用しているパソコンやスマートフォンは、ノイマン型コンピュータと呼ばれ、最初のノイマン型コンピュータの設計から70年以上が経過しています。このことから明らかのように、基本的なコンピュータの動作原理はこのコンピュータの誕生時点から現在でも変わっていません。その一方、今日の機械学習のようにコンピュータで処理できることは大きく進歩しています。これはコンピュータの処理の効率化や複数の処理を可能にすることで実現にしました。

本講義では、コンピュータの基本的な動作の仕組みと身近な例を使用し、どのようにコンピュータが効率的に処理することを可能にしたかについてお話しします。

166

情報セキュリティ入門

佐藤 友暁 (経済学部経営情報学科教授)

情報セキュリティとは、情報の機密性、完全性、可用性を維持することです。具体的には、見られては困る情報を守ること、情報の破壊や改ざんから守ること、情報を必要とするときにその情報へのアクセスが可能であることを常に維持することです。例えば、情報の機密性を維持したい場合は、インターネットからのアクセスを行えないようにする方法がありますが、これは可用性を犠牲にします。従って、情報の機密性、完全性、可用性の3点から最適なポリシーを決める必要があります。

本講義では、身近で具体的な例を使った情報セキュリティについて考えていきます。

その他

167

困難を乗り越えて生きること

～がん体験者が教えてくれるいのちと人生～

大島 寿美子 (文学部心理・応用コミュニケーション学科教授)

2人に1人が一生のうちで一度はかかる「がん」。がんを体験した人の語りから、病いを経験するとはどういうことか、病いを乗り越えて、あるいは病いとともに生きるとはどういうことか、そこから私たちがいのちや人生について何を学ぶことができるかについてお話しします。

168 地域社会から考える環境問題

寺林 暁良 (文学部心理・応用コミュニケーション学科専任講師)

環境問題は、気候変動問題や生物多様性問題など、地球規模で語られることも多いのですが、それによって問題の全体像や本質が見えにくくなってしまふことがあります。しかし、普段の生活や地域社会から見直すことで、環境問題がいかに私たちに身近な問題かを理解することができます。

この講義では、自然環境保全運動や地域エネルギーの導入といった具体的な事例に基づきながら、みなさんに環境問題をローカルに、そしてグローバルに考えてもらいます。

169 自然とはなんだろう、自然を守るとはということだろう

寺林 暁良 (文学部心理・応用コミュニケーション学科専任講師)

自然を守るとは大事なことです。しかし、守るべき自然とはなんだろうかと考えると、実は奥深い問題です。知床半島のような原生的な自然はわかりやすいですが、一方で田んぼや里山のような人の手が入った自然をどう考えたら良いでしょうか。また、シカやクマなどの獣害問題が日本各地で多発するなかで、野生生物と人間の関係をどう捉えたらよいでしょうか。

この講義では、一筋縄ではいかない「自然」という概念について考えるとともに、それを守る（あるいはそれと付き合う）社会のありかたについても検討します。

170 「エントロピー」で測る多様性と格差

矢吹 哲夫 (経済学部教授)

「エントロピー」は、欧米では高校の様々な授業で使われている重要な概念です。簡単にいえば「散らばり」を表わす言葉で、例えばゴミが散らばっているというときの「位置の散らばり」を表す量です。そして「種の散らばり」を表すエントロピーは「多様性」を測る物差しとなり、例えば生物多様性指標として世界中で使われています。また情報処理の分野では「情報エントロピー」として活用されていて、その中の「不平等指数」として用いられているタイルエントロピーは、「格差の大きな社会」即ち「豊かさの多様性が失われた社会」を「エントロピー」で測っています。

本講義では、「エントロピーって何だろう？」から始めて、その「多様性指標」、「不平等指数」への応用をアニメーションスライドも使って分かり易く解説します。

171 「エントロピー」で見る生命環境問題

矢吹 哲夫 (経済学部教授)

「エントロピー」は、欧米では高校の様々な授業で使われている重要な概念です。簡単にいえば「散らばり」を表わす言葉で、例えば本が散らばっているというときの「散らばりの度合い」を表す量です。そして「エネルギーの散らばり」を表すエントロピーは「生命活動」を測る物差しとなり、例えば、生きていく為に我々動物が汗をかき、植物が葉から蒸散をするその理由を理解する「鍵」を与えてくれ、一つの天体が生命を宿し、育むことが出来るかどうかを知る手がかりも与えてくれます。また、地球温暖化問題の原因である「温室効果」のもう一つの危険な側面も教えてくれます。

本講義では、「エントロピーって何だろう？」から始めて、その生命環境問題への応用をアニメーションスライドも使って分かり易く解説します。

2 入学前教育

「学科別入学前教育の実施」

(趣旨) 入学試験を媒介にして高校と大学の接続を考える場合に、高校における教育・学習の到達点と大学における教育・学習の出発点を滑らかに接続することの重要性が指摘されてきました。大学において期待される学習と高校までの学習のギャップを埋めるために考案されてきたのが「入学前教育」です。各大学が多様なプログラムを用意していますが、北星学園大学もまた、これまで各学科の独自の取組として、特に推薦入学生を中心的な対象にして実施してきました。この実績を踏まえ、本学では2008年度実施の入試結果から本格的に「高大連携プログラム」として実施しております。

- ① 推薦入学等で入学が決定した生徒は、その時点から本学各学科の学生であるとの捉え方で、学科との接触を図る。
- ② この接触は、大学と生徒の関係だけでなく、同時に当該高校の教員との関係を意識した形で進める。
- ③ この関係は、「大学と生徒の関係」及び「学科と生徒の関係」の二重の形で進める。
- ④ 推薦入学等で入学が決定した生徒には、大学図書館の利用の便宜を図る。

以上のような考え方で、現在の各学科での計画の一覧を掲載します。高大連携の一貫としての「入学前教育」の実施にご期待ください。

Hokusei Gakuen University

文学部英文学科

《これまでの実施状況》

推薦入学者を対象として、英語力増強のための入学前教育をおこなっています。具体的には、eラーニングシステムを使用した英語教育プログラム(スマートフォン、タブレットからもアクセス可能)を用意し、自主学習を促しました。その主な目的はTOEFLの得点力をつけることと、初年度の本学の教育に無理なくついてくることのできる学力の獲得です。合格通知を受け取ってから入学までの時間を有効に活用し、また大学での学習意欲を喚起するものとして役立っています。

《2020年度の予定》

目的:初年度の英文学科学生に求められるのは、英語母語話者によって英語で行われる各種基礎英語教育ならびに、英文学科専任教員が担当する基礎演習、英文法クリニック等の授業に支障がない程度の総合的英語力を保持していることとなります。よって、学生各自がオールラウンドな英語の基礎力を獲得することを目標とします。

方法:英語力の増強に関しては、できるだけ多くの英文に触れることが必要です。よって、推薦入学の学生全員に向けeラーニングシステムを使用した英語教育プログラムを提示し、自主的学習を促します。また、英語力向上に向けての学習動機を喚起するために、以下のような情報開示をあわせて行います。(1) 入学後すぐにTOEFLテストにより英語力の測定が行われること。(2) 入学後、英語母語話者による会話テストが行われ、オーラルイングリッシュのクラスは、その結果による能力別に編成されること。

文学部心理・応用コミュニケーション学科

《これまでの実施状況》

入学形態にかかわらず、合格者全員に対して、入学後の早い段階に「日本漢字能力検定試験2級」の模擬試験を実施しています。また、学科独自の新入生オリエンテーションを実施し、学生生活のスタートをサポートしています。希望者に対しては、英語及び漢字検定対策講座、卒業研究発表会、心コミ・ラウンドテーブル(卒業生との交流会)への参加を勧めています。

《2020年度の予定》

目的:本学科の授業ではレポート作成の機会が多く、授業によっては毎週のようにレポート課題が出されます。また、最終学年には28,000字以上の卒業研究を提出しなければならず、かなり高い日本語能力が求められています。そのため、これらの基礎となる一定水準以上の漢字能力の習得を入学前に薦めています。また、本学科では言語能力・コミュニケーション能力の育成に力を入れており、語学に関する学外の検定試験に対して単位を認定しています。言語・コミュニケーション能力の育成には時間がかかりますので、大学入学前から勉学に取りかかることを推奨しています。なお、入学前5年前までに合格した検定試験も単位として認めています。

方法:検定認定の群(分野)は、「英語」「独語」「仏語」「中国語」「韓国語」「日本語」「漢字」に分かれています。このうち受験者の多い漢字検定については、新入生全員に対して、入学後の早い時期に「漢字能力検定2級」の模擬試験を実施することを通知し、その準備をしてもらいます。また、英語と漢字に関しては、検定対策講習会を開講しています(希望者のみ)。入学後や卒業後のイメージづくりのために、卒業研究発表会やラウンドテーブルへの参加も勧めています(希望者のみ)。

経済学部経済学科

《これまでの実施状況》

少人数教育を核として「<知>の魅力に触れ、なりたいた自分>に出会い、<社会の主人公>になろう。」を掲げてきめ細やかな指導をおこなっている北星経済学科では、指定校推薦入試・公募推薦入試の合格者が、大学入学前のやや長い期間を充実した準備期間とすることができるよう、2007年度より入学前教育プログラムを展開しており、10年が経ちました。

経済学科では、2015年度まで、入学前の期間のアクセントとなるような集合研修の機会を設けていましたが、2016年度は、e-learningシステム(Moodle)により継続的な自宅学習を促すことに主眼を置いたものへと入学前教育を衣替えしました。これは、2011年度に集合研修後に実施し、先駆的取り組みとして朝日新聞の全国版紙面でも紹介されたものをさらに手直したものです。

また、読書課題は2007年以来、継続して指定をおこなってきています。

《2020年度の予定》

目的:経済学科での学びのためには時事問題への関心が必須となります。そのために、経済学科では、1年次に「新聞活用」プログラムを用意していますが、推薦入学者のみなさんにはニュースに興味をもつきっかけとして、時事ワークシートを使用した入学前教育に取り組んでもらうことにしています。

方法:「新聞活用」プログラムでも使用している時事ワークシートをピックアップしてe-learningシステム(Moodle)で提供し、直近のニュースや時事用語に関心を寄せさせるようにしています。満点になるまで何度でも解答できる形式を採り、ニュースについて調べるよう促しています。

経済学部経営情報学科

《これまでの実施状況》

経営情報学科では、公募推薦および指定校推薦の入学予定者を対象として、e-Learningシステム(「Moodle」)を活用した入学前教育を実施しています。入学前教育で取り上げる用語は、「経営分野」、「マーケティング分野」、「会計分野」、「情報分野」の4つの分野に関連する用語であり、すべてが経営情報学科で学ぶ上で最低限必要とされる基礎的な用語となっています。これらの基礎的な用語をもとに、各分野20題ずつ出題(4分野×20題=合計80題)し、入学するまでに各分野の基礎的な用語を効率的に学習することができるように進めています。

《2020年度の予定》

目的:入学前からe-Learningシステム(「Moodle」)の操作に慣れるとともに、経営情報学科で学習するにあたって必要とされる基礎的な用語について理解し、大学入学後、大学・学科での学習にスムーズに進むことができるようにすることを目的としています。

方法:引き続き、「Moodle」と呼ばれるe-Learningシステムを活用した入学前教育を実施する予定です(インターネット環境にない場合は、郵送にて対応する予定です)。具体的には、次のような方法で入学前教育を進める予定です。

- ①e-Learningシステム(「Moodle」)の活用により学習する。
- ②「経営分野」、「マーケティング分野」、「会計分野」、「情報分野」の4つの分野に関連する内容を選択問題形式により学習する。
- ③各分野20題ずつ合計80題(4×20=80)の選択問題を出题する。
- ④1月から2月下旬までの入学前期間を4つの期間に分け、1期間につき20題(4分野×5題)ずつ解答する。

経済学部経済法学科

《これまでの実施状況》

経済法学科では、入学後の経済学と法律学の学習が円滑に進むように、eラーニングシステムを利用して、入学前までに高校までの数学を復習する課題を用意しています。

《2020年度の予定》

目的:経済法学科のカリキュラムでは、1年生から経済と法律の専門科目が目白押しです。こうした専門科目は、白紙の状態からスタートするのではなく高校時代に学んだ数学や政治・経済、情報などの知識や技術を基礎に進められます。入学前教育は、新入生が高校生の《学習》から、大学生の《学修》へとスムーズに移行できるよう、学科の専門科目の前提となる知識や技術について復習・補習することをねらいとしています。

方法:経済法学科では、入学前教育として、インターネットを活用した数学のeラーニング(遠隔授業)を導入しました。というのも、現代経済学を学習しようとする、道具として数学が不可欠ですが、本学科に入学してくる学生諸君のなかには数学を苦手に行っている学生が少なくないからです。経済学の学習で使う数学の基礎となる高校までの数学の能力を、eラーニングのための専用ホームページにアクセスすることで、確かなものにしてもらおうと考えています。

社会福祉学部福祉計画学科

《これまでの実施状況》

推薦入学者を対象に、専門課程での勉学に関する本のリストから2冊を選び、それぞれについて内容をまとめ、レポートを作成してもらいました。

学科の教員全員がこれらのレポートを回覧・熟読した上で、学生の問題関心の動向を把握しました。

《2020年度の予定》

目的:入学前の期間を利用し、福祉計画学科の専門課程での勉学に関連する時事的なテーマについて、学科の選定するリストから2冊を選び、その文献を読み、考案・評価することを練習します。

方法:まず、リストから2冊を選び、しっかりと熟読します。そして、その重要な箇所を中心にさらに考察を深めて、それぞれ1,200字程度でレポートに書き、提出します。提出されたレポートについては、学科教員で文章の書き方等をチェックし、考察のポイント等についてコメントをいれて、返却します。これによって、2冊の本をより深く、また広い視点から読み込み、自分なりの評価ができるように練習します。

社会福祉学部福祉臨床学科

《これまでの実施状況》

2007年度より推薦入試合格者を対象に、入学前教育を実施しています。内容は、学科教員が、福祉関係の課題図書を選定し、推薦入試による入学予定者に対し「課題図書一覧」を送付し、入学予定者は、その一覧から1冊を選び、理解した内容と自分の考えを1,600字程度にまとめ、提出します。その後、提出されたレポートを、図書を選定した教員が添削講評し、コメントを付けて本人に返送します。この課題により入学決定後の数ヶ月間に福祉に関する学習への動機付けを維持し、添削指導と講評により、読解力や文章表現力・考察力を養うことをねらいとしています。また、文書・メールによる随時の相談の機会を提供しています。入学後は、「福祉臨床入門」(1年次前期)の必修科目を用意し、入学前教育との継続性を確保しています。

《2020年度の予定》

目的: 入学前教育については、入学決定後の数ヶ月の間で、福祉臨床学科で学ぶモチベーションを維持・強化し、大学生として学ぶための読書習慣を身につけること、またレポートの作成、添削指導と講評により、読解力・文章表現力・考察力を養うことを目的としています。さらにサブパンフレットや大学ホームページ「シラバス」閲覧の勧めにより、学科の教育内容に対する事前理解やイメージ形成を図ることを目的としています。

方法: 入学前教育については、入学予定者に対し、学科教員による「課題図書」から1冊選定し、その内容と自らの考えをレポートとして1,600字程度にまとめ、提出させます。提出されたレポートを学科教員が添削し、コメントを付けて本人に返送する方法をとっています。

また、「福祉臨床学科サブパンフレット」や大学ホームページ「講義要項」の閲覧を勧奨し、学科の教育内容に対する事前理解やイメージ形成につなげるとともに、文書やメールによる相談体制を用意しています。

社会福祉学部福祉心理学科

《これまでの実施状況》

福祉心理学科では、これまでは推薦合格者に対して、全教員がそれぞれ推薦する図書の一覧を作成し、送付してきました。そこでは、読み手の感性を引き出すような図書や、難解ながらもじっくり時間をかけて自分自身と対峙できるような図書など、推薦図書のジャンルを幅広く設定されていました。入学前の大切な時間は心理学の領域にのみとられず、むしろ広い視野からいろいろな物事に触れて考える時間にしてほしいと考えています。そのことから義務としての読書は適切でないとの考えから、読書後の感想文の提出等の課題は求めないことにしていましたが、2011年度から下記の目的と方法に変更しています。

《2020年度の予定》

目的: 広く深く考えるということが大事であるという考えは従来通りですが、2011年度より、大学における心理学教育に結びつくトレーニングになる課題を課すことにしました。それは「データを正しく取りまとめ、的確に自分の言いたいことを表現する能力」を高めることです。この能力は、大学入学以降に非常に重要な能力になります。最終的には卒業論文でこの能力の程度を試すこととなりますが、まずその第一歩となる易しい課題を解くことにより、大学における心理学教育になじんでいただくのが目的です。

方法: 新聞記事や評論をもとに、それらの文章の要約をし、その内容に関する自分の意見を適切に表現することを課題とします。一定の字数内で文章にまとめ、レポートを提出してもらいます。それに対して、学科教員がそのレポートを添削し、皆さんに返送します。

短期大学部英文学科

《これまでの実施状況》

2017年度までは、語彙習得の強化を図るために課題テキスト1冊を完璧にこなす課題を課していましたが、2018年度から以下のとおり、指定したウェブサイトを利用した課題に取り組んでもらうことにしました。

《2020年度の予定》

目的:短期大学部英文学科では、英語による実践的なコミュニケーション能力の育成を目指し、1年次から多くの科目において英語で授業が行われています。したがって、入学前に「聞く」「話す」「書く」「読む」の基礎的な英語力を身につけ、本学科の学習に円滑に移行できるように、次の方法で入学前教育を行います。

方法:12月から2月の約3か月間、毎週、指定された英語の動画を視聴し、聞き取った英単語のクイズに答えたり、動画のセリフを真似して録音したりするなど、様々な活動を通して、実践的な英語力を身につけます。本学科の担当教員が学習状況を確認し、各週の目標に到達していない場合は連絡をさせていただく場合もありますので、計画的に実施することが大切です。

短期大学部生活創造学科

《これまでの実施状況》

生活創造学科の入学者のうち、推薦入学制度(「指定校推薦」と「自己推薦」)による入学者の割合は、70~80%と高い割合を占めています。入学前年の11~12月に入試と合格発表が行われてから4月までの間、短大入学に向けて有意義に過ごすことができるように、本学科では入学前教育として以下の取り組みを実施し、成果をあげています。

(1)課題レポートの提出

12月~3月末までの期間で、以下の課題の提出を求めています。

- ①**新聞社説を読んだレポート作成:**推薦合格者全員が対象。興味関心を持った新聞社説を1点取り上げて切り抜き、A4レポート用紙に貼り付け、その社説についての感想・意見をまとめて提出する課題です。
- ②**推薦図書を読んだレポート作成:**推薦合格者全員が対象。本学科での学習に関連する約30冊の推薦図書の中から2冊を読み、それら各々についてA4レポート用紙2枚程度に要約と感想をまとめて、提出する課題です。一般入試合格の入学予定者には、3月の一か月間で1冊の読書レポートを課しています。5月にはクラス担任がコメントを書き入れて返却します。
- ③**フィールドワークレポート作成:**上記の2冊の読書レポートの1冊分として、自らの直接体験をもとにしたレポート作成を選択できます。これまでのテーマは「映画ポスターの静と動」、「空間の印象、色々」などです。

(2)インターネットを利用した教材と情報の提供

①e-learning「入学前教育」コースの開設

1月~3月の期間にコースウェアMoodleで「入学前教育」コースを開設して、入学後の学習に役立つ基礎的な知識を確認する自動採点問題を提供しています。毎週、一つずつトピックを増やしていく方式で、継続的な学習を促します。

②入学前教育の課題と入学準備に関する情報提供

「生活創造学科入学直前メールマガジン」を発行しています。

《2020年度の予定》

目的:

- ①短大での学習の基礎となる高校までの学習の定着と苦手科目の克服・復習の促進。
- ②本学科での学びのキーワードである生活の知的創造のために、現代社会の有りようやできごとに関心を持つこと。

方法:これまで実施してきたことを継続します:(1)課題レポート (2)e-learningを利用した基礎学力確認の「入学前教育」コースの提供 (3)推薦入学予定者向け「生活創造学科入学直前メールマガジン」を発行による情報提供。

「高大連携プログラム」に関する問い合わせ・申し込み先

1. 高大ブリッジ講義(出張講義)

北星学園大学の教員が高校の教室に赴いて大学での「学び」とはどういうものか、大学にはいかなる「知と技」があるのかに触れていただく機会を提供しています。

詳細・申込方法 ⇨ 1～25ページ

2. 入学前教育

本学における各学科別の入学前教育実施状況です。

詳細 ⇨ 26～30ページ

入試課

代表 TEL (011)891-2731
FAX (011)894-8383

案内図



Hokusei Gakuen University

北星学園大学

北星学園大学短期大学部

札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
TEL011-891-2731 (代表)

交通の便

- 市営地下鉄東西線【大谷地駅】下車、一番出口を出て左手サイクリングロード通学路を研究棟(8階建)を目標に西へ徒歩5分。
- 札幌市内方面からタクシーで来学する場合、南郷通り大谷地神社信号を右折し約200メートル。

